週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1914
大正3年

8|18
平成10年8月18日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第31号 通巻74号
¥560
講談社

“東洋一”の東京駅開業！

大成功！「東京大正博覧会」の超“目玉”展示品
「読売新聞」に登場した女性“身の上相談”の中身
オーストリア皇太子暗殺で第1次世界大戦勃発！

設計コンセプトは"皇都"のイメージ作り
第一次大戦・青島占領の凱旋将軍を迎えて
「東洋一の大停車場」東京駅、開業！

▲開業時の東京駅舎全景。南北に334.54メートル、ドームの高さ46メートルの威容を誇った。 尾形光彦提供

◀天皇・皇后専用の休憩室「松の間」にある玉座の椅子。屏風は、狩野元信作と伝えられる。 中川市郎

▼明治41年着工当時のままの柱の根元。3、4番線ホームの南側に、現在も12本が残る。

▲東海道本線・東北本線の起点を示す、ブロンズ製ゼロキロポスト。第2-第3ホーム間にある。 大江正治（左二点とも）

▼往時の南乗車口広場のにぎわいを描いた「東京名所・東京停車場の図」。大正7年、綱島亀吉作画の彩色石版画。 交通博物館提供

▲大正3年12月18日、東京駅の開業式と神尾中将の凱旋歓迎会に詰めかけた大群衆。凱旋門と開業祝賀の方錐塔が見える。 「風俗画報」

大正三年一二月一八日、総工費二八〇万円、工期六年半の歳月をついやして完成した東京駅の開業式が行われた。「宮殿のごとし」と評された吹き抜けの乗車口（南口）広間に、時の総理・大隈重信をはじめ、政官界、陸海軍の要人など来賓・関係者一五〇〇人が集った式典は、まさに国家規模の「祝祭」であった。

将軍の帰国を迎えて国家的な「大祝祭」に

大正三年一二月一八日――その日は、春を思わせるうららかな一日であった。

鉄道院総裁・後藤新平（五七）が「大ロシアを負かした日本にふさわしい、世界があっと驚くような駅を」と言って作らせただけあって、三菱ケ原（現・丸の内界隈）の敷地総面積六万五三〇〇坪（約二一万平方メートル）に建てられた延べ面積七二四二坪（約二万四〇〇〇平方メートル）の赤煉瓦三階建てのルネサンス風建築は、世界に誇れるスケールと建築美を備えていた。そして、開業式典もまた、後世に語り継がれるほど仰々しいものだった。

午前一〇時からの式典は、古川阪次郎鉄道院副総裁の挨拶で始まり、大隈重信首相（七六）の演説、阪谷芳郎東京市長の祝辞と続いたが、このイベントを最高に盛り上げたのは、青島攻撃軍の総司令官・神尾光臣陸軍中将（五九）の東京凱旋を東京駅開業式の当日にセットしていたことによる。この年、日本は第一次世界大戦に参戦した。八月二三日、ドイツに宣戦布告、インド兵を中心としたイギリス軍と共同して、ドイツの中国経営の

◎表紙 大正3年3月、東京駅竣工当時の記念写真。北側降車口（現・丸の内北口）の巨大なドームが見える。 大林組提供

設計コンセプトは"皇都"のイメージ作り
第1次大戦・青島占領の凱旋将軍を迎えて

「東洋一の大停車場」東京駅、開業！

拠点である青島を包囲攻撃、一一月七日に陥落させたのである。

午前一〇時三〇分、品川駅から凱旋将軍の神尾中将を乗せた電車がプラットホームに到着した。神尾中将は作家・有島武郎（三六）の義父にあたるが、当時有島の妻・安子が肺結核で鎌倉に転地療養していたため、母に代わって有島の二人の息子である三歳の行光と二歳の敏行の幼い兄弟が、海軍服に身を包んで祖父の帰りを待ち受けていた。

「じいちゃん万歳」と歓声をあげる孫の声に無言の微笑みでこたえる将軍、まさにできすぎと思えるくらいの絶妙な演出だった。万歳、万歳の歓声の湧き起こる中、神尾中将は高橋善一駅長（五七）の先導で駅中央の皇室専用乗降口から出て、数万人の群衆が見守る駅前広場にしつらえられた大緑門（凱旋門のようなもの）をくぐり、宮内省差しまわしの馬車で宮城に向かった。この時、一〇〇〇発の花火の轟音が、三菱ケ原にこだましたという。翌日の「東京朝日新聞」は、この日の模様を以下のように伝えている。

「開通の盛観、凱旋の光輝 征戦三閲月、功成りて堂々凱旋せる神尾司令官の一行は、この日一八日を以って開業せる東洋一の大停車場東京駅頭の壮観に第一歩を印しつつ、狂喜歓迎せる帝都に入りぬ。名誉ある凱旋は壮麗なる開通式と相俟ってここに空前の大盛観を呈し（後略）」

まさに国家的規模の「祝祭」といった筆致である。いかに「東洋一の大停車場」の開業式とはいえ、たかだかひとつの駅完成を、なぜこれほどの「祝祭」にしなければならなかったのか。

国家と時代が求めた"皇都"東京のイメージ

「東京駅には、純粋な駅舎としての機能以上に求められていたものがあったんです。日露戦争以降の鉄道国有化と『鉄網』の完成が『中央停車場』を必要としたことと同様、日本国にとっても『首都』という絶対的な中心が必要だったわけです」と言うのは、武田信明・島根大学法文学部助教授だ。

明治以来、東京が首都であり続けたことは、今では常識化しているが、当時はまだ、東京が恒久の首都とは考えられていなかった、というわけだ。

「不安定だったからこそ、東京が首都であり、皇都であるというイメージを定着させる必要があったのです。大連、京城（ソウル）を結ぶ帝国主義的統治の基軸として、中央＝東京＝皇都の一元化が重要だった。それを必要とした主体は、国家と言ってもいいし、『時代の無意識』と言い換えてもいいでしょう」（武田助教授）

東京駅は、皇室専用空間を設けた初めての駅である。その設計段階から、始めに皇室ありきという発想だったことは、以下の挿話からもうかがえる。

明治三九年三月、鉄道国有法が公布された時、鉄道院は、中央停車場は宮城側に設計するのだから、桃山様式の御殿造りがよかろうと、明治天皇に伺いをたてた。しかし、天皇は「ステーションのごときは、外国式がよい」と述べられたため、オランダのアムステルダム中央駅に範をとったと言われる洋風建造物になったというのである。

さらに、商家、民家が多くにぎわっていた日本橋、京橋などを後背地として持つ八重洲側には、計画当初から、乗降口を作る気配さえなかった。ちなみに八重洲側に乗降口ができたのは、昭和四年一二月で、まったくの"裏口"であった。

東京市民の東京駅へのアクセスは円タクか市電で、市電は目黒—芝園橋—市役所前（現・丸の内三丁目）、南千住—浅草橋—市役所前、柳島—水天宮—市役所前の三路線だけで、馬場先門の停留所に着くと車掌が「遥拝」と声をかけ、乗客は宮城に向かって頭を下げたという。

東京市民にとって、東京駅は新橋、上野ほど身近ではなかったのである。

絶妙の演出で成功裡に幕を閉じたかに見えた東京駅開業式だったが、午後からの東京—高島町（横浜）間の電車試乗会が故障に次ぐ故障で、一時間半の予定が四時間半もかかるという大失態が起こる。故障の原因は明白で、鉄道院が東京駅開業を神尾中将の凱旋に間に合わせようとして、あまりに工事を急いだためだった。国家的規模の「祝祭」を成功させたツケは大きかった。一二月二〇日からの電車の運行も、一週間たらずで翌年の五月まで延期されることになったのである

（東京駅一階平面図）

▲明治41年、着工当時の東京駅全景。鉄骨用の鉄材2740トン。煉瓦は表面化粧用を含めて895万4000個を要した。 交通博物館提供

▼天井はステンドグラスで採光されていた。 交通博物館提供

▼黒田清輝らの油絵が飾られた正面玄関広間。昭和20年、空襲で焼失。 尾形光彦提供

▲東京駅の設計者・辰野金吾。

▲初代の東京駅駅長・高橋善一。

中川市郎提供（左・右とも）

二人の東京駅設計者

明治建築界の重鎮・辰野金吾による東京駅の設計以前に、ドイツ人技師のフランツ・バルツァーによる中央停車場計画案があった。バルツァーは、東京の高架鉄道建設の技術顧問として明治31年に招聘され、5年間ほど滞在した。バルツァー案は、日本古来の建築様式を取り入れた純和風の建造物で、西洋化を推し進める明治政府には受け入れられなかった。しかし、駅舎中央部の皇室専用空間、南北に振り分けた乗車口と降車口、乗降口の丸の内側への開口といった駅舎の基本構造には、バルツァーの原案が忠実に踏襲されている。つまりバルツァー案をベースに、外観を純和風から赤煉瓦を基調としたルネサンス風に塗り替えたのが辰野金吾の設計した東京駅とも言える。

辰野金吾がいわゆるイギリス派であることを考えると、この交代劇は、ドイツからイギリスへという当時の日本の外交政策と符合している。もちろん、開業式典の当日、東京駅の根幹が敵国であるドイツ人によって設計されたことなど、誰も語らなかっただろうし、陰の設計者・バルツァーが招待されるはずもなかった。その日、バルツァーは第1次大戦での負傷で入院中であったという。

▲東京駅工事にたずさわった鳶職人たち。上棟後、職工4人の墜落死が記録されている。 大林組提供

目玉はわが国初のエスカレーターに美人コンパニオン
一三四日間に約七五〇万人の入場者
「東京大正博覧会」が大成功！

大正三年、東京の上野公園を舞台に史上空前の東京大正博覧会が開催された。会期中に約七五〇万人が入場したこの博覧会には、内外の最新産業技術の粋が集められた。また、わが国初のエスカレーターが登場、大きな話題となった。この博覧会は、日本が本格的な工業国家へと脱皮をとげる狼煙でもあったのである。

▲東京大正博覧会・第1会場正門前のにぎわい。門上部の女神像の下には、「萬邦協和」の4文字が掲げられた。

開会式に五万人が殺到 警備の警官二〇〇〇人

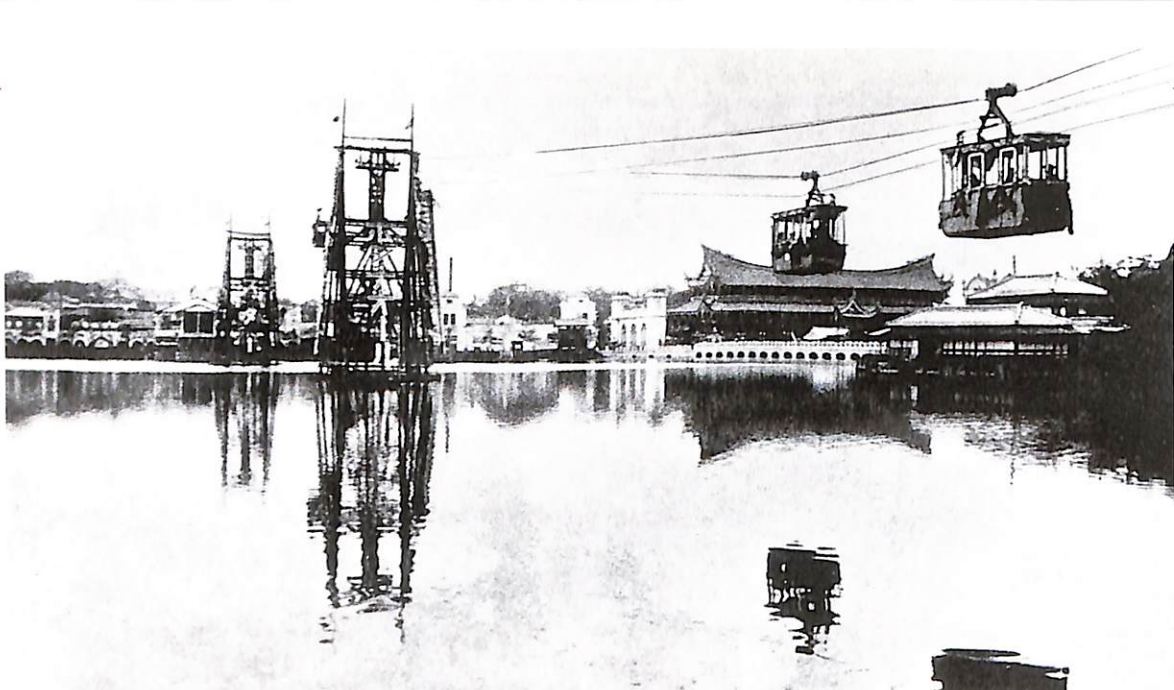
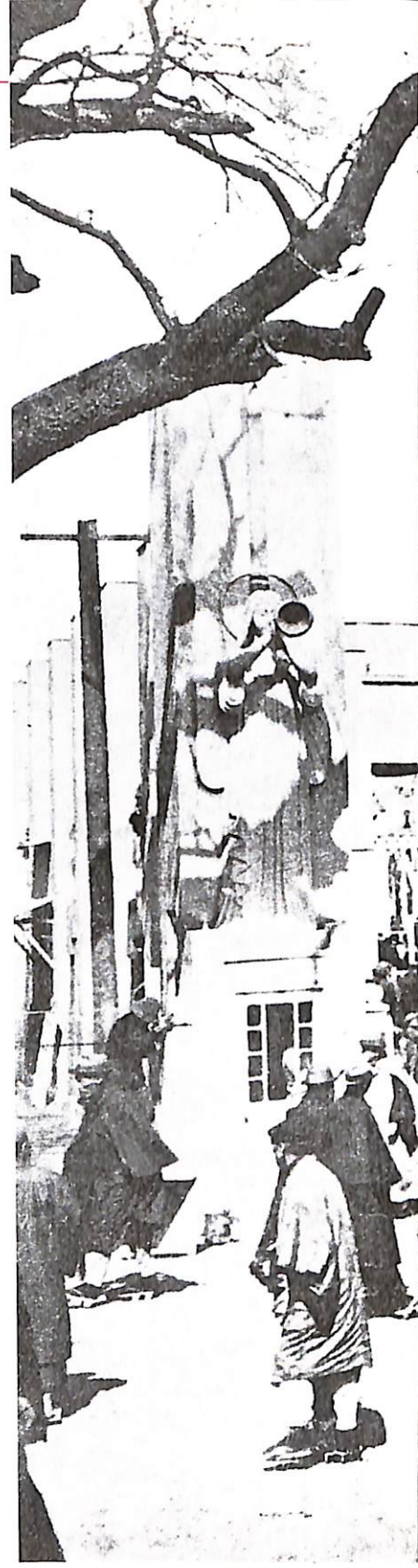
大正三年三月二〇日、東京・上野公園に大群衆が押し寄せた。上野名物の桜が三分咲きになったこの日、開会式を迎えた東京大正博覧会に、五万人の群衆が殺到。翌日の「東京日日新聞」（現・「毎日新聞」）は、「観覧者の襲来あまりに猛烈なるより、定刻に先だつ一五分第一会場の正門五カ所の入り口を開いて入場させ」たと書いた。そのままでは危険で、開門時間を繰り上げなければならなかったのである。

元黒門町（現・台東区上野）から会場正面の間には、旗を飾った装飾塔が四、五米の間隔で建てられていた。だが、その数よりも警備の警察官が数倍も上回っていた。警視庁は、市内の各警察署から二〇〇〇人にものぼる警察官を総動員した。上野広小路から上野の山まで、サーベルの音が鳴り響いていた。人々は「日比谷の内閣弾劾演説会みたいだ」とささやきあった。時の山本権兵衛内閣は、折から発覚した一大汚職、「シーメンス事件」の激震に襲われていた。こうした物情騒然たる中、各国外交官、国会議員、学識経験者、財界人などの招待客は、フロックコートにシルクハット、あるいは羽織袴という礼装に威儀を正し、人力車や馬車、自動車で会場に向かった。だが、いずれも人垣の前に進むことも戻ることもできず、立ち往生せざるをえなかったのである。

大正天皇即位記念と銘うったこの博覧会場は、第一会場の上野・竹の台と第二会場となった不忍池畔に、合わせて七万個を越えるタングステン電球のイルミネーションが飾られ、「まるで昼のようだ」と評判を呼んでいた。

話題のまとはイルミネーションだけではない。「階段がある仕掛けでそのまま上下し、その上に立っていると自然に一秒間に一尺身体が運ばれていく」乗りものも大きな呼び物だった。本邦初公開のエスカレーターである。乗り場前には長蛇の列ができたが、乗り慣れないために、たびたびトラブルも起きた。七四歳の老婆が「階段の動揺はなはだしきために振り落とされ」「顔面に全治二週間」、あるいは「二歳の少女足を挟まれ座骨に傷」などの事故が続出したのである。

六月一七日には大正天皇が会場を訪れ、エジソンの活動写真機、ミシン、液体酸素の潜水機、清涼飲料の瓶詰め機などを興味深そうに観覧され、二万五〇〇〇円をお買い上げになったと翌日の「時事新報」は伝えている。

その一方では開催準備の遅れも目立っていた。開会式当日までに間に合わず、「閉鎖」の張り紙をした展示館も少なく

▲博覧会の呼び物のひとつ、不忍池上空を横断する延長約400メートルのロープウェー。9人乗りで片道15銭だった。 毎日新聞社

「写真タイムス」

▲第1・第2会場を結んだエスカレーター。本邦初とあって人気を呼び、利用料10銭が15銭に値上げされた。

松坂屋提供

▲第1会場内の奏楽堂で演奏する、いとう呉服店（現・松坂屋）の少年音楽隊。三越、白木屋の音楽隊も出演。

なかった。呼び物のひとつの、不忍池上空を通るロープウェーは、開会からほぼ一月後まで開通がずれこんだほどだった。

◀人気を集めた反面、低俗、粗末などと悪評も呼んだ「美人島旅行館」。入場料大人20銭、小児10銭。
毎日新聞社（下1点とも）

異常人気をあおった「美人島」と「女看守」

博覧会の趣旨は、殖産興業を掲げた内外の物品の展示だった。機械館、植民地館、農業館、林業館などが建ち並び、石油エンジンの飛行船、飛行機、艦船、自動車、モートル（モーター）の原理説明のパネルなどが人目を集めていた。また、東京瓦斯の展示館では、家庭用ガス風呂、ガス暖房、ガスレンジなどが展示され、主婦たちの羨望のまなざしをあびていた。

だが、それ以上に人気があったのは、そうした実益につながるものよりも「美人島」と「女看守」だった。一般から募集した一〇〇人の「美人」を、光と鏡を用い、「学理を応用し」て「火焔上の美人」や「蛇体美人」などに仕立てていた。「女看守」は、今で言えばコンパニオン。二〇〇〇人の中から選りすぐった約七〇〇人が、場内の説明や案内などにあたった。彼女らの住所、年齢、履歴などが書かれたガイドブックが作られ、相場がいくらかは記録に残っていないが、ひそかに売買されていたのである。

こうした客寄せ効果も手伝って、東京大正博覧会は、七月三一日までの一三四日間の会期中に七四六万三四〇〇人が入場している。これは日本の博覧会史上空前の入場者であった。これを破ったのは大正一一年の「平和記念東京博覧会」と、昭和四五年に大阪で開かれた「日本万国博覧会」を数えるだけである。

▼洋装の美人一行を引き連れた自動車のパレード。まだ珍しい自動車と華やかな美女の組み合わせは、博覧会を象徴するものだった。

明治末期から大正時代を通じて、わが国では博覧会が目白押しだった。東京で開かれたものだけでも、「拓殖博覧会」（大正元年）、「遷都五〇年記念博覧会」（大正六年）、「化学工業博覧会」（同）、「電気博覧会」（大正七年）、「婦人子供博覧会」（同）、「平和記念家庭博覧会」（大正八年）があった。

大阪産業大学の竹村民郎教授は、

「博覧会の発祥は、一九世紀なかばのロンドン万博でした。目的は科学技術の革新でしたが、次第に大衆性を持たせるために、遊びの世界とのドッキングがはかられてきたのです。たとえばパリ万博では、エッフェル塔が建てられました。シカゴ、フィラデルフィアとそういう傾向は続いていたのです。そして東京大正博覧会も、まさにその延長線上にありました。

当時日本は、世界の綿糸輸出の四分の一を提供する軽工業国家でした。そして大正博は、こうした段階から、重化学工業化と都市化をてこに、本格的な工業国家へと離陸するエポックを告げるイベントでもあったのです」

と評価するのである。

▲第1会場の南洋館。東南アジアの現地人「6人種25人」のショーが売り物だった。（風俗画報）

女たちの肖像

四年間で上演回数四四〇回！ “新しい女”の代名詞となった松井須磨子の「復活」大ヒット

稲葉真弓

▲朝鮮半島、中国にまで巡演した。

大正時代の大流行歌として知られる「カチューシャの唄」が生まれたのは、この年三月、帝国劇場で上演された芸術座第三回公演のトルストイ原作「復活」がきっかけだった。主演・松井須磨子（二七＝本名・小林正子）、演出・島村抱月（四三）。この芝居は四年間で四四〇回という上演数を数える大ヒット作になり、須磨子が歌う「カチューシャの唄」のレコードは、売り上げ二万枚強。カチューシャ櫛が大流行した。

「復活」は当たりに当たったが、須磨子の個人的評判にろくなものはない。わがままで、ヒステリック……。が、これらの行状は、二度の結婚に失敗、後は「女優しかない」と舞台に賭けた、須磨子の開き直りからきていたのかもしれない。

明治一九年一一月、長野県松代の士族の家系に、九人兄弟の末っ子として生まれた須磨子は、父が事業に失敗した後、叔母の養女となった。一四歳の時、養父と実父を亡くし、姉をたよって上京。手に職をつけるために戸板裁縫女学校にかよった。卒業後の三六年、千葉県の素封家に嫁いだが、数ヵ月で離婚、四一年に日本橋高等女学校の教師・前沢誠助と再婚した。芝居に目覚めたのは、演劇好きの夫の影響だった。ついには英語劇の劇団に入り、隆鼻術の手術を受けるほどののめりこみよう。結婚生活は、わずか二年で破綻した。

彼女の才能が花開くのは、坪内逍遙主宰の文芸協会付属演劇研究所で第一期生として学び、明治四四年五月、文芸協会第一回公演で「ハムレット」のオフィーリア役を得てからである。この時、初めて芸名の松井須磨子を名乗り、評判は上々。続けて九月、「人形の家」のノラ役を迫真の演技で見せ、翌年、「故郷」のマグダ役で主役を演じた時は、ノラ役にまさる賞賛をあびた。

須磨子のノラ役は“新しい女”の代名詞となり、婦人解放運動に火をつける役割をはたしたが、私生活では師の、妻子ある島村抱月との不倫問題を抱えていた。このスキャンダルで、須磨子は大正二年、文芸協会を退団、抱月とともに芸術座および芸術倶楽部を創設、同棲生活に入った。しかし、蜜月はあっけない形で幕を閉じた。

大正七年一一月、抱月が流行性感冒で急死すると、須磨子は二ヵ月後の八年一月五日、覚悟の首吊り自殺。女盛りの三二歳、しかも、“新しい女”の最期が男を追っての死であったことは、なんとも皮肉である。

勝者・敗者

早慶戦再開に向けて“第一歩” 実力伯仲の新興・明治を加え三大学野球リーグ戦スタート！

阿部珠樹

明治三六年、野球の早慶戦が初めて開かれる。大学野球隆盛の第一歩だった。しかし、両校の応援が過熱し、明治三九年、早慶戦は中止になってしまう。学生野球のリーダーシップを握る二チームが直接対決を避け、停滞を余儀なくされている間に力を伸ばしたのは明治大学だった。

明大野球部は大正二年の東洋オリンピックに単独チームで参戦、アジアのチャンピオンシップを獲得する。そして北米遠征も敢行し、チーム力を大きく向上させた。

この明治のチーム力向上を受けて、大学野球のリーグ戦結成の気運が高まった。早慶の直接対決はむずかしいが、間に明治という緩衝地帯をおけば、変則ながらリーグ戦の形はできる。話し合いはまとまり、大正三年一一月、三大学野球リーグ戦が始まった。試合は三回戦制、早慶の直接対戦こそないものの、明治対慶応、明治対早稲田という好カードが見られるとあって、野球ファンの期待は大きかった。

まず激突したのは明治と慶応。古豪・慶応に対し、新興・明治は一歩も引かず、一勝一敗一引き分けと、五分の戦いを繰り広げた。

続いては、明治対早稲田。

この時、早稲田の二塁手で五番を打ったのが、後に巨人軍の監督をつとめることになる浅沼誉夫（二三）、捕手で六番を打ったのがプロ野球創成の功労者の一人で野球殿堂入りする市岡忠男（二二）である。

慶応との戦いで明治強しと見た浅沼、市岡らは、抜け目ない試合はこびで新興・明治を攻略する。二回、三塁線を抜いた浅沼を、市岡が確実に二塁に進め、相手の失策もあって先取点をあげる。続く三回には、市岡が二死からしぶとくタイムリーを放って追加点。結局、四対一で、早稲田が明治を破った。早稲田は続く第二戦も一点差でものにし、勝負強さを見せつけた。

三大学野球は大正六年に法政、一一年に立教、一四年に東大が加盟して六大学リーグ戦の体裁を整え、現在まで日本の学生野球をリードしている。

「写真タイムス」

▲大正3年6月17日～10月9日、初のアメリカ遠征を行った、中沢不二雄遊撃手ら明大野球部一行。戦績は26勝28敗2引き分けだった。

1月

「歴史写真」

▲横綱太刀山全勝の東方、およばず(1月19日)両国国技館で行われた、東京大相撲1月場所の東西対抗は、西方が優勝。写真は優勝旗を持つ平幕の宇都宮。

「歴史写真」

▼シーメンス事件の容疑者夫人、自殺未遂(1月31日)ロイター記者の夫・ブーレーが、シーメンス社恐喝の容疑で逮捕され、剃刀で喉を切った。写真は騒然とする東京・赤坂のブーレー宅。

▶東京・麹町でウィルヘルム2世誕生祝賀会(1月27日)55歳を迎えたドイツ皇帝を祝し、ドイツ教会で盛大なパーティーを開催。中央の正装姿が駐日イタリア大使とドイツ大使。日本のドイツへの宣戦布告は想像すらされていない。

「歴史写真」

▲生駒トンネル貫通(1月31日)大阪電気軌道(現・近鉄)が、大阪―奈良間の生駒山に建設。複線では日本最初で最長の3388メートル。前年の落盤事故で20人を失っていた。

◀南アフリカ連邦でゼネスト(1月)鉱山労働者による待遇改善要求に端を発し、全土に波及。初代首相・ボータは、運動指導者10人をひそかに国外に追放、また国防軍を派遣して鎮圧した。写真は、ヨハネスバーグ市内で電車を囲む鉄道労働者ら。

ユニフォト・プレス

「歴史写真」

▲伊豆沖で貨客船「愛鷹丸」沈没(1月5日)西伊豆の土肥港から戸田港に向かう途中、烈風に襲われ転覆。定員26人に135人も乗せる無謀な航行が原因で、乗員・乗客146人中、25人が後続の船によって救助された。

「歴史写真」

大正3年1月

1(木)●日本郵船、東北凶作地救済のため、宮城県石巻港に荷揚げする米穀の無賃輸送開始。

2(金)●全国的な暴風雨で青函・関門の連絡途絶。

3(土)●米―独間の直通無線通信が確立。

4(日)●富士登山中の新潟県高田スキー倶楽部のメンバー二人が八合目で谷底に転落、一人即死。

5(月)●定員の五倍の駿河湾汽船「愛鷹丸」、土肥―戸田間沖で風浪のため沈没。一二一人死亡。

6(火)●キリスト教新教各派、共同伝道の方法を決定。

7(水)●前年の横浜市内の火災三三件で半減と新聞に。

8(木)●「土陽新聞」が「土佐銀行の危機」を掲載、即日取り付け騒ぎ起こる。

9(金)●横浜・山手の米人宅から出火、洋館数棟全焼。

10(土)●中国、袁世凱大総統が国会停止令を宣布。

11(日)●東京・品川遊廓で六年間八〇〇円で身受けされた娼妓が、四四回登楼の石屋職人と心中。

12(月)●鹿児島・桜島が大噴火、三五人死亡。溶岩流出で対岸の大隅半島と地続きになる。

13(火)●「中外新報」が「東北惨状記」連載開始。

14(水)●京都帝大、人事権問題で法科教授全員が辞表提出(4月澤柳政太郎総長の依願免官で解決)。

15(木)●南アフリカのゼネストに戒厳令布告と外電。

16(金)●露作家・ゴーリキー、帰国(革命への関与で死刑判決を受けた後、国外追放となり八年目)。

17(土)●東北九州災害救済会、義援金募集を新聞広告。

18(日)●神戸の実業家らが主催予定の貿易博の経費二〇万円のうち、兵庫県が三万円補助と新聞に。

19(月)●東京煙草小売人営業税免除同盟、大会開催。

20(火)●中村太八郎ら普通選挙同盟会を再興(2月16日、政談演説会が禁止され活動停止)。

21(水)●斎藤実海相、軍備補充費一億五四〇〇万円(大正三年度以降)の追加要求を議会に提出。

22(木)●エジプトで新議会開催される。

23(金)●独・シーメンス社の日本海軍への贈賄事件報道から同志会・島田三郎、衆議院で政府を追及。

24(土)●同志会・国民党、営業税廃止案を衆院に提出。

25(日)●三菱製紙所、台湾工場休業を総督府に具申。

26(月)●無名会第一回公演、帝劇で「オセロー」上演。

27(火)●堺利彦、社会主義雑誌「へちまの花」創刊。

28(水)●東京・新富座で「廃税」劇上演、人気を呼ぶ。

29(木)●井口在屋ら「ゐのくちポンプ」の特許取得。

30(金)●シーメンス事件に関連してロイター通信記者・ブーレー、恐喝容疑で収監。

31(土)●全国商業会議所連合会、営業税全廃を決議。

ニュース・ファイル

1914

フォト+日録で再現する365日

海軍汚職のシーメンス事件で民衆の内閣弾劾の声が国会をとりまき、山本内閣は総辞職。七月、第一次世界大戦が勃発すると、日本は中国での権益をめあてにドイツに宣戦布告。青島を占領し、日本の所期の目的は達成されたが、欧州での戦線は膠着状態に入ってゆく。

◀「議会へ!」「議会へ!」(2月10日)海軍汚職のシーメンス事件による内閣弾劾決議案が否決、これに反発して日比谷で国民大会開催中の数万の民衆が国会へ殺到、警官と衝突した。翌月、山本内閣は倒壊した。

「イリュストラシオン」

ユニフォト・プレス

▲**チャップリン(24)、映画デビュー(2月2日)** 英国のドタバタ喜劇一座と米国に遠征中、スカウトされ、ヘンリー・レアマン監督「成功争ひ」に出演。おなじみの浮浪者の衣装で登場するのは第2作目「ヴェニスの子供自動車競争」から。

「イリュストラシオン」

▲**スコット碑除幕(2月5日)** 前年南極点からの帰途、遭難した無念の英探検家を顕彰。仏のグルノーブルに近いロータレ峠は、南極探検前のスコットの訓練地だった。

「歴史写真」

▲**北海道・東北大飢饉に施米募集(2月3日)** 冷害で北海道・青森の米作は、平年の1割から2割という大凶作。全国的な救済活動が起こる。写真は新真婦人会会員ら。

「嗜好」

「写真タイムス」

◀**門司駅新築(2月1日)** 八幡製鉄所を中心に北九州工業地帯が形成され、発展する港と結ぶ鉄道の起点として、駅拡大は急務だった。写真は移転を祝うホームの「キリンビヤホール」。

◀**自転車で世界一周(2月20日)** 日本力行会員の大久保素公(25)がチャレンジ。午前9時、日比谷公園で仲間たちに送られ元気よく出発した。自転車を業務用でなく、遊びに使うのは珍しい時代だった。

▶**ロンドンで婦人参政権デモ爆発(2月15日)** 内務大臣邸の窓を壊し、テニス・クラブを焼き払ったり、パンクハーストとその娘・クリスタベルらが率いる女性運動家団体「サフラジェット」の戦術は過激。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

大正3年2月

1(日)●寿屋洋酒店(現・サントリー)、合資会社となる。
2(月)●憲政擁護会、薩閥根絶・海軍廓清を決議。
3(火)●英・ベルギー、ベルギー領コンゴと英領東アフリカの境界線を画定。
4(水)●東京地裁、海軍汚職問題で、英・ヴィッカース社員を召喚。
5(木)●京阪電鉄、電灯業営業で炭素線に代わってタングステン電球を使用開始。
6(金)●東京・国技館で開催の各派連合全国有志大会、内閣弾劾を決議。
7(土)●政友会、減税一五〇〇万円を決議。
8(日)●スウェーデンで軍拡反対デモ(労働者の行進)。
9(月)●シーメンス事件で海軍大佐・沢崎寛猛を拘禁(15日、海軍少将・藤井光五郎も)。
10(火)●衆議院、内閣弾劾決議案(国民党・同志会・中正会が合同提出)を否決。
●東京・日比谷の弾劾大会から国会に民衆殺到(13日、四三五人検挙)。
11(水)●日本移民協会(会頭・大隈重信)設立。
12(木)●衆議院、海軍拡張費三〇〇〇万円削減を可決。
13(金)●山田耕筰アーベント、東京・築地精養軒で開催(「嘆」「ふるさとの」ほか。三浦環ら出演)。
14(土)●東京海上保険に日本初の自動車保険認可。
15(日)●英・ロンドンで婦人参政権運動が暴動化。
16(月)●政府、シーメンス事件の全貌発表。
17(火)●西本願寺疑獄事件で内局交代(5月14日、法主・大谷光瑞、本願寺住職・管長を辞任)。
18(水)●前年の発禁書籍二七四種(八〇増)と新聞に。
19(木)●東京・駒込の出版社から出火、五二戸全焼。
20(金)●災害または天候不順による収穫皆無の田畑の地租免除の法律、公布。
21(土)●京浜間を航行の船舶に対し、十数年間にわたり海賊行為を行った三隻六人を逮捕。
22(日)●前年予算額八二〇万円余の航路補助金、今年は二割減、パナマ航路は郵船が有力、と新聞に。
23(月)●全国新聞記者大会、一〇日の内閣弾劾大会での警察官による市民への抜刀に抗議。
24(火)●海軍問題で疑惑の松本和中将、呉から上京。
25(水)●河野広中ら、民衆拘留などから原敬内相問責決議案を衆議院提出(26日、否決)。
26(木)●尾上菊五郎らの狂言座第一回公演、帝劇で坪内逍遙作「新曲浦島」ほか上演。
27(金)●貴族院の減税案委員会、営業税で論戦。
28(土)●富士瓦斯紡績、相模水力電気との合併完了。

「歴史写真」

▲**秋田に大地震(3月15日)** 早朝5時近く、烈震に襲われ、仙北郡を中心に、県下で家屋全半壊約1000戸、死者94人の被害を出した。写真は、圧死した親類の葬式のために、餅をつく仙北郡強首村の村民。

林順信提供

▲**東京・本郷に菊富士ホテル開業(3月)** 大正博覧会の外国人客を対象に、地上3階、地下1階の洋館造り。後に正宗白鳥・宇野千代らも長期滞在し、東京名物となった。

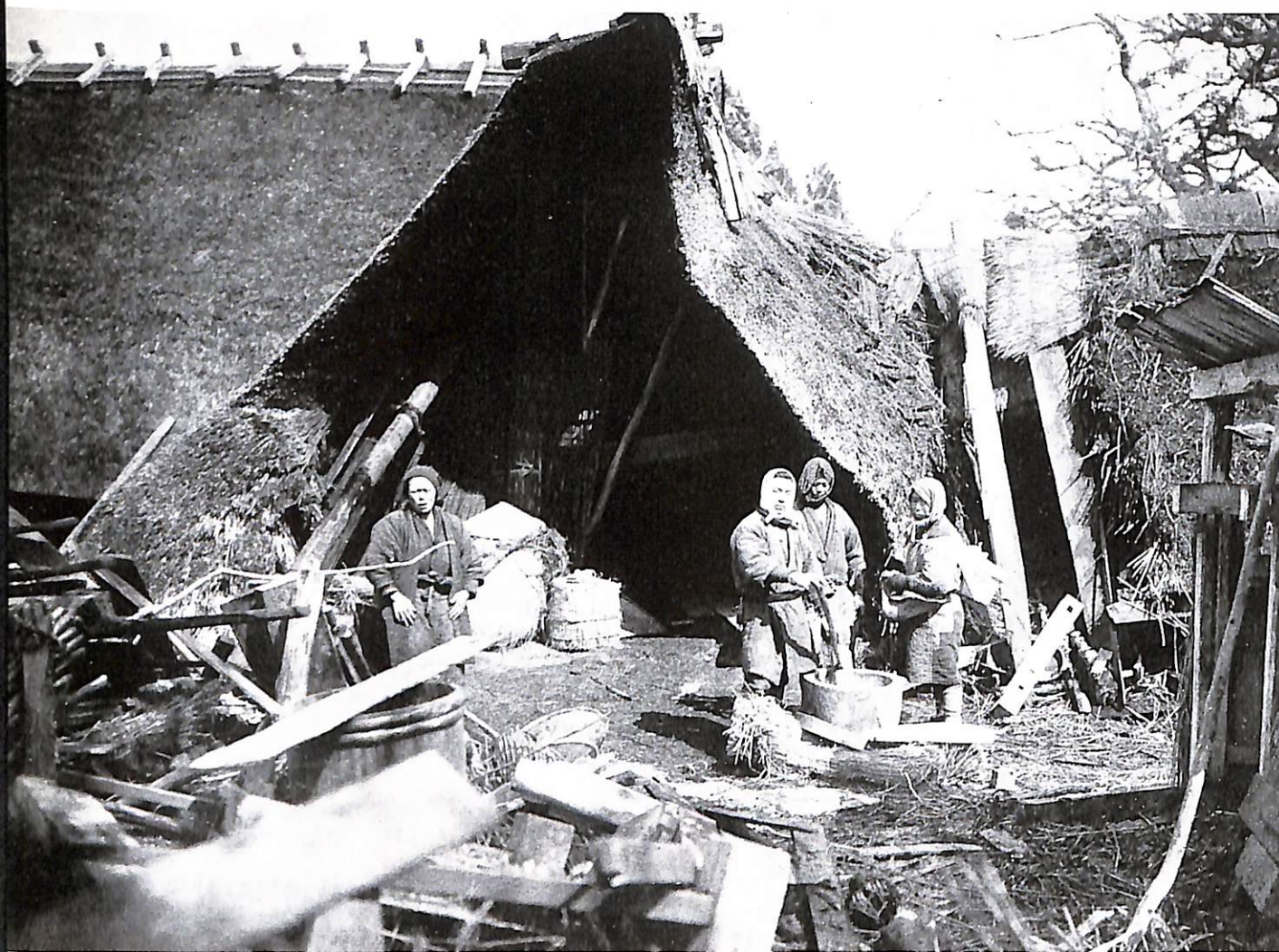
那覇市歴史資料室提供

▲**沖縄に初の映画常設館、オープン(3月1日)** 那覇区に木造2階建ての帝国館が完成。この頃、映画は芝居をおびやかすほど、大衆娯楽としての地歩を固めつつあった。

◀**国産小型乗用車、誕生(3月)** 快進社の橋本増次郎らが、英・仏から部品を買い集め「DAT1号」を製作。20日、大正博覧会に出品した。日産ダットサンの源流に。

日産自動車提供

▼**サンガー夫人「女性反逆者」創刊(3月)** 後に「家族計画の母」と呼ばれる女性(35)による、避妊知識普及の月刊誌。猥褻文書として告発され、サンガーは英国に逃れた。

「写真タイムス」

▲**全国新聞記者連合会の内閣弾劾大演説会(3月8日)** 連日のように開かれ、この日は東京・歌舞伎座に聴衆約3000人が続々と押しかけた。尾崎行雄は、山本内閣には「愛想も尽きた」などと痛烈な批判。

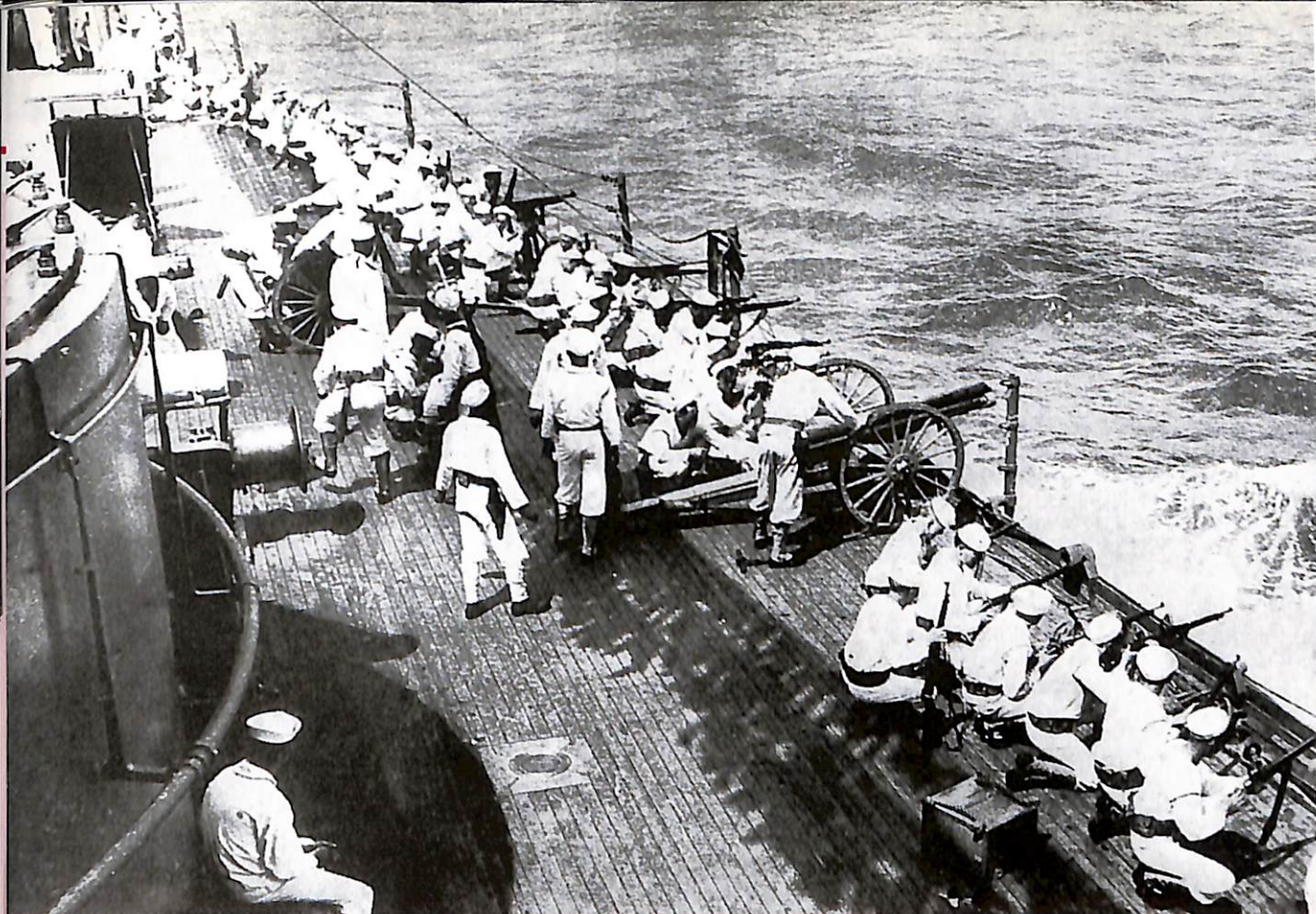
ARCHIVE PHOTOS

大正3年3月

1(日)●黒猫座(文芸座の前身)第一回公演、シュニッツラー作「恋愛三昧」を有楽座で上演。
2(月)●石川県絹織物同業組合、操業短縮を開始。
3(火)●高砂生命(三井生命の前身)設立。
4(水)●全国新聞記者連合会の総代・黒岩周六(涙香)ら、内閣問責の嘆願書を宮内省に提出。
5(木)●農商務省、イバラ蟹(雌と稚蟹)捕獲を禁止。
6(金)●大阪の福島紡績女工二〇〇人、工務係排斥を要求しスト。工務係解職で解決。
7(土)●愛知県知事、大礼の斎田所有者に決定通告。
8(日)●金物相場が大暴落、京浜に破綻店続出。
9(月)●伊で増税反対のゼネスト。内閣総辞職。
10(火)●磯部少佐、ルンプラー式飛行機で東京を飛行。
11(水)●愛知県、名古屋市内の劇場などから観覧税徴収の県令発布(各劇場は反発し、スト画策)。
12(木)●日魯漁業設立(函館)。社長・田村市郎。
●英・ヴィッカース社代理店の三井物産取締役、明治四三年の「金剛」注文時の贈賄容疑で勾引。
13(金)●貴族院、衆議院修正の予算案から、さらに海軍拡張費(新艦建造費)四〇〇〇万円削減。
14(土)●海軍、旅順の鎮守府を廃し要港部設置を決定。
15(日)●秋田県下で大地震、九四人が死亡。
16(月)●仏蔵相夫人、「フィガロ」紙の編集長を射殺。
17(火)●東京・日本橋に天然色活動写真(天活)創立。
18(水)●袁世凱、北京で約法会議(新約法制定)。
19(木)●犬養毅ら五人、シーメンス事件に関して内閣弾劾上奏案を衆議院に提出。
20(金)●東京大正博覧会、開幕(~7月31日)。
21(土)●ブーレー、保釈金二〇〇〇円で保釈。
22(日)●鉱毒被害地選出の代議士、学生などによる田中正造追悼会、東京・築地本願寺で挙行。
23(月)●貴族院が海軍拡張費削減に固執し、予算案不成立(24日、山本権兵衛内閣総辞職)。
24(火)●英・中・チベット、チベットと英領インド間の国境線(マクマホン・ライン)を画定。
25(水)●国際通信社(社長・樺山愛輔)、創立。
26(木)●芸術座、トルストイ作「復活」を帝劇で初演。劇中歌「カチューシャの唄」が流行。
27(金)●山口・周防銀行休業し、県下に取り付け続出。
28(土)●元老会議、後継内閣首班に公爵・徳川家達を推薦(30日、徳川は辞退)。
29(日)●福岡県博多で三井銀行支店など二〇戸が焼失。
30(月)●赤城正蔵、『アカギ叢書』刊行開始。
31(火)●売薬法公布。薬剤士・医師以外の売薬を禁止。

▲柳田国男(38)、貴族院書記官長に就任(4月)前年3月、高木敏雄と創刊した雑誌「郷土研究」を、この年から一人で編集。写真は官舎前庭で。大正8年退官。

Hulton／オリオン・プレス

◀裕仁親王、東宮御学問所入所(4月)学習院初等科卒後、帝王学を学ぶため、東宮に学問所が新設され、7年間の勉学生活に入った。総裁・東郷平八郎。写真左は御学問所制服姿の親王。右は教室。

▲米、メキシコ内乱に介入(4月21日)米船員逮捕の「タンピコ事件」を契機に、メキシコ湾岸のベラクルス港を占領、革命軍の攻勢に悩むウエルタ政権を見放した。写真は、ベラクルスへ向かう米海軍。

「写真通信」

▲大山巌、内大臣就任(4月)伊藤内閣から6代陸相を、日露戦争では満州軍総司令官をつとめた薩派の重鎮だった。71歳。写真は翌年の天皇即位式で、内大臣の衣冠束帯をつけた大山。

「写真タイムス」

◀重松中尉、墜落死(4月26日)東京・青山練兵場を発ったベテランパイロット操縦の陸軍モ式第6号が、所沢飛行場着陸に失敗、炎上。パイロットは即死した。写真は「泣かざりし親の心」と題して報道された現場の遺族、左3人目から両親、妻、妹。

近畿日本鉄道提供

◀大阪電気軌道、大阪―奈良間開業(4月30日)生駒トンネルを通る電車が売りもので、初日は超満員。所要時間53分。並行する汽車を所管する鉄道院は、運賃値下げでこれに対抗した。

大正3年4月

1(水)●宝塚少女歌劇、宝塚新温泉内パラダイス劇場で第一回公演(歌劇「ドンブラコ」など)。
2(木)●政友会・国民党、超然内閣反対を決議。
3(金)●「読売新聞」に新聞初の婦人欄「婦人附録」登場(5月2日、「身の上相談」欄開設)。
4(土)●東京に明治四一年以来の四月の降雪。
5(日)●帝国麦酒、「サクラビール」を東京で発売開始。
6(月)●コロンビアがパナマ独立を承認。
7(火)●組閣命令を受けた清浦奎吾、加藤友三郎の海相就任拒絶で組閣を辞退。
8(水)●北海道函館市で大火、約八五〇戸焼失。
9(木)●皇太后美子の危篤発表(11日崩御)。
10(金)●前宮内大臣・渡辺千秋に本願寺から離宮用地買い上げの成功報酬、と新聞に。
11(土)●ロンドンでB・ショー作「ピグマリオン」(「マイ・フェア・レディー」の原作)上演。
12(日)●帝国学士院賞授賞式、皇太后崩御で中止。
13(月)●大隈重信に組閣命令(14日、国民党代議士会は党員を入閣させないことを決議)。
14(火)●千葉・小見川町で肺ペスト患者死亡。
15(水)●群馬県安中教会の牧師・柏木義円、「上毛教界月報」で同化主義的な朝鮮人伝道方針を非難。
16(木)●第二次大隈重信内閣成立(外相に同志会・加藤高明、法相に中正会・尾崎行雄)。
17(金)●京浜電鉄、鶴見・花月園遊園地と経営契約。
18(土)●北浜銀行(大阪株式・商品取引所の機関銀行)が取り付けにあう(25日、日銀が救済融資)。
19(日)●京城(ソウル)南大門で満鮮汽車博覧会開催。
20(月)●夏目漱石、「朝日新聞」に「こゝろ」連載開始。
21(火)●東京下谷区内で腺ペスト発生(25日、ペスト・発疹チフスに関し注意書発表)。
22(水)●東北・北海道を強風が襲い、各地で山火事など続出。岩手県では民家約一七〇戸焼失。
23(木)●平沼検事総長、海軍収賄事件は一段落と談話。
24(金)●米国・コロラド州の炭鉱ストで民兵一〇〇〇人と労働者が衝突、死傷者多数。
25(土)●日本天文学会、太陽暦改良案を定例会で提案。
26(日)●三井物産、ヴィッカース社事件の取締役解任。
27(月)●東京控訴院、広東紙幣一〇〇万円偽造事件の古賀廉造に無罪判決。
28(火)●大阪府、警察庁舎改築で府議事堂を仮庁舎に。
29(水)●美術劇場、東京・有楽座で第一回公演。秋田雨雀作「埋れた春」初演。澤田正二郎ら加入。
30(木)●大阪電気軌道(現・近鉄)、大阪―奈良間開業。

証言・あの日この日
平塚らいてう(27)

1月10日(土) 〈それで巣鴨の社から一、二丁の処に極、閑静な植木屋の離れの二階を昨日ふたりで見付けて借りることに極めて参りました。それで実は明日にもその家に引移りたいと思っております。大変突然のようですが、私としてはもうずっと以前から再三、再四熟考を重ねた上のことで、決して俄の想い立ちや、一時の出来心ではございませんし、／ほんとうに真剣なことなのでございます〉(平塚らいてう「独立するについて両親に」)

明治44年、女性だけの雑誌「青鞜」を創刊、「元始女性は実に太陽であつた」と宣言し、過激な女性復権運動を開始した平塚らいてうは、この頃家を出て、年下の恋人・奥村博史と巣鴨で共同生活を開始する。らいてうの行動は「新しい女」の代表として脚光をあびるが、一方で世間からは激しい批判や嘲笑を受けた。(山崎行太郎)

『写真五拾年史』

▼横浜・鶴見に遊園地・花月園オープン(5月)宝塚を家族向け行楽地にした阪急・小林一三の経営に刺激され、「東洋第一」を誇った。昭和23年、競輪場に。

▲昭憲皇太后、大葬(5月24日)前月11日に64歳で崩御した、明治天皇皇后の大葬挙行。黄白の旛(写真)や楽隊が先導し、宮城から代々木の葬場殿へ向かった。

神奈川県立図書館提供

▲杉浦重剛(59)、東宮御学問所御用掛に(5月23日)三宅雪嶺、志賀重昂らと「日本人」を発行した日本主義者が、若き親王(後の昭和天皇)に倫理学を授けた。国学院大学学監をつとめていた。大正9年、妃の婚約破棄騒動では山県有朋の動きに反対する。

「イリュストラシオン」

▲カナダの豪華客船沈没(5月29日)「エンプレス・オブ・アイルランド号」が濃霧のため、セントローレンス川河口で石炭運搬船と激突して沈没。100人近くが救助されたが、1012人が死んだ。写真は引揚げ後。

▶秋田に石油大噴出(5月26日)南秋田郡の日本石油黒川油田R5号で、日本新記録の日産2000キロリットルを達成。内藤社長宛に「自噴止まず滾々として尽きず滝となりて奔流する」と電報が打たれた。写真は、約415メートルの深さから原油を噴出する鉄管。

「歴史写真」

大正3年5月

1(金)●独・ドレスデンで第一回フランス文化展開催。印象派の画家・モネなどの作品が人気呼ぶ。
2(土)●三菱神戸造船所、同所初の貨物船「博進丸」(南満州鉄道向け)竣工。
3(日)●沖縄電気軌道、那覇―首里間の電車開通。
4(月)●印刷の秀英舎、独製の活版二色刷輪転機設置。
5(火)●横浜水上署、ペスト予防のため船舶消毒開始。
6(水)●神戸・ダンロップゴムの労働者四〇〇人、収入減に反対して一〇時間労働制を要求しスト。
7(木)●米議会、五月第二日曜日を「母の日」と制定。
8(金)●本州東部一帯で上空が黄褐色になり、中央気象台は蒙古方面の砂塵が原因と発表。
9(土)●神奈川・本牧に横浜演舞館が移転開場。
10(日)●国民党の七議員が脱党し進歩倶楽部結成。
11(月)●海軍が人事異動。山本権兵衛・斎藤実両大将を予備役に編入。
12(火)●新橋駅でブレーキ故障の機関車、ホームに乗り上げ。
13(水)●第一回全国仏教徒社会事業大会、東京で開催。
14(木)●英、中国に対し四川省の石油採掘権を要求。
15(金)●農商務省に植物検査所を設置(大正13年、大蔵省に移管、税関の一課となる)。
16(土)●神戸海運業組合(組合長・佐藤勇太郎)結成。
17(日)●信越・妙高山麓で河川増水、石切職人三人溺死。
18(月)●名古屋発の急行列車が熱田駅付近でポイントミスから脱線転覆。十余人死傷。
19(火)●九州・五島付近に大濃霧、船舶運航乱れる。
20(水)●三浦環、渡欧のため新橋駅出発(二年間にわたり伊・仏などの声楽家に教えを受ける)。
21(木)●海軍大学校卒業式、皇太后大葬のため天皇陛下に代わって侍従武官が列席。
22(金)●朝鮮で農工銀行令・地方金融組合令、各制定。
23(土)●「東京朝日新聞」、一万号に達する。
24(日)●東京・代々木で昭憲皇太后大葬。
25(月)●福田狂二ら日本労働党結成(6月15日禁止)。
26(火)●日本石油の秋田県黒川油田で日本最大の噴油。
27(水)●九州・鹿児島市で出火、二九〇戸焼失。
28(木)●日本郵船の株主総会で近藤廉平社長、海運界は好況の絶頂をすぎ下り坂と演説。
29(金)●軍法会議、海軍収賄事件に有罪判決(松本和中将に懲役三年など)。
30(土)●東京株式取引所、日本石油の株価急上昇による市場混乱のため、日本石油株売買を停止。
31(日)●朝鮮外国船舶検査規則公布。

「イリュストラシオン」

▲イタリアで反政府ゼネスト(6月8日)アンコーナの反軍国主義デモへの発砲に抗議し、各地で暴動化。写真はローマで。鎮圧されるまでを「赤色週間」と言う。

「三重百年」

▲東洋紡績誕生(6月26日)明治19年設立の渋沢栄一の関係会社、大阪紡績と三重紡績が合併。本社・四日市市。昭和6年には、世界最大の紡績会社になった。

「写真タイムス」

▲常陸山、引退相撲(6月12日)梅・常陸時代を築いた名横綱(40)の最後とあって、4日間にわたり両国国技館で披露興行。写真は記念の土俵入り。露払いが梅ケ谷、太刀持ちが晩年の好敵手・太刀山の両横綱。

▲原敬(58)、政友会総裁に(6月)「大正政変」の渦中、引退した西園寺公望(写真右)の後を継いで就任。3月に倒れた山本内閣の内相だった。大隈内閣成立で野党となった党員に、「発展には党勢拡張が不可欠」と演説。

東京YWCA提供

▶初の民間飛行競技大会開く(6月13日)帝国飛行協会が兵庫・鳴尾競馬場で実施。写真は、滞空時間94分で他を圧倒した独製ルンプラー式鳩型単葉機。着陸後、機首を突っこみひやりとさせた。

◀東京YWCA、託児所開設(6月1日)新渡戸マリ子を委員長とし、小石川に「好友園」を設立、子どもを育てながら働く母親から、11人を預かってスタート。運営費はすべて寄付でまかなった。

「歴史写真」

大正3年6月

1(月)●大阪・東京・東洋・上毛モスリン、五割の操業短縮開始(翌年5月末まで実施)。

2(火)●美濃電気軌道(岐阜)、笠松駅開業。

3(水)●東京に帝国救世薬院設立。

4(木)●日本蓄音器商会、吹きこみ芸術家の著作権を譲り受け、複製レコードの駆逐に乗り出す。

5(金)●樺太庁長官に岡田文次を任命。

6(土)●辰野金吾ら建築家一二人が会合(翌年、日本建築士会設立)。

7(日)●被差別部落民に対する偏見の打破などが目的の帝国公道会(会長・板垣退助)結成。

8(月)●伊、社会党・労働総同盟指導でゼネスト(ムッソリーニが蜂起煽動、一四日軍隊鎮圧)。

9(火)●政府、東北凶作地に一〇〇万円低利融資決定。

10(水)●三菱長崎造船所立神工場で職工一四〇人が小頭排斥を要求しスト(13日、説諭により就業)。

11(木)●窪田空穂らが「国民文学」発刊。

12(金)●下中弥三郎、平凡社を創業。と新聞に。

13(土)●兵庫・鳴尾競馬場で第一回民間飛行競技大会開催(帝国飛行協会主催。参加五機)。

14(日)●東京の大正博会場(不忍池ほか)で蛍狩り開催。

15(月)●米・パナマ運河通航料法を制定。

16(火)●鉄道院、大貨物特定運賃制定。

17(水)●農商務省、蚕業試験場設置。

18(木)●政友会第三代総裁に原敬。

19(金)●カナダ・アルバータ州のヒルクレスト鉱山で爆発、作業員数百人死亡。

20(土)●東京モスリン吾嬬工場で、紡績労働者一〇〇〇人解雇などに反対しスト。

21(日)●横浜植物会、牧野富太郎を招き採集会を開催。

22(月)●埼玉・大宮町民、川越電灯への料金値下げ要求から、同盟して消灯(9月、要求実現)。

23(火)●大隈首相、防務会議設置を議会演説。

24(水)●米・メキシコ間に議定書成立(紛争終結)。

25(木)●北海道小樽の鉄道埋め立て工事現場で約一〇〇〇坪分の土砂が崩れ、作業員一五人圧死。

26(金)●東洋紡、創立総会開催(三重・四日市)。
●東京に三菱二一号館、竣工(貸しビルの始め)。

27(土)●臨時閣議、海軍補充案を決定。

28(日)●オーストリア皇太子、セルビア系青年に暗殺される(サラエボ事件)。

29(月)●横浜外人商業会議所、商取引が東京中心に移り「横浜及び東京外人商業会議所」に改称決定。

30(火)●中国の亡命政治家・黄興、米に向け東京出発。

「現場」を歩く 桜島

大隅半島と地続きになった"大正爆発"と「櫻州人」魂

山本徹美

▲桜島南東部の有村溶岩展望所から、噴煙を上げる南岳をのぞむ。有村町は、大正3年の大噴火による溶岩が海岸まで広がっており、昭和21年の溶岩流出でも大被害を受けた。 但馬一憲

大正三年一月一二日午前一〇時すぎ、鹿児島湾に浮かぶ桜島の主峰・北岳(一一一七メートル＝当時・一一三三メートル)をはさみ、その両脇から黒煙が上がった。

「噴火口は東西の二箇所、鳴動天地を撼かし、噴煙天に沖して白日暗く、巨石を降らし灰砂を飛ばし溶石を噴出する」(『櫻島大爆震記』同年・鹿児島新聞刊)

当時、桜島の戸数は三一一六、人口は二万一三六八。島民の大部分は地震、地鳴りなどを噴火の前兆とみなし、大隅半島の牛根、垂水方面や鹿児島市内へと避難していた。ところが、鹿児島測候所は東桜島村の村長らの問い合わせに、「桜島ニハ噴火ナシト答フ」(桜島爆発記念碑碑文)。そのことが混乱を招き、後々まで禍根を残す。逃げ遅れた島民は真冬の海へ飛びこんだ。対岸の鹿児島市に泳ぎついた人もいたが、一八人が海上を漂流、行方不明に。死者は合計三五人、行方不明は二三人と報告されている。

桜島西側に流出した溶岩は幅約二キロ、高さ約四〇メートル。一月一五日、海上に進出すると、水蒸気を上げ埋め立てながらさらに沖へ。一九日には烏島を取りこむ。

一方、東側の溶岩流は瀬戸海峡へと向かい、幅三町一八間(約三六〇メートル)水深四〇尋(約七〇メートル)の海峡を埋め、同三一日、大隅半島に到達。その接続線は五〇〇メートルに達した。つまり、桜島が大隅半島と地続きになったのである。

島民の架橋への期待

平成一〇年五月、鹿児島市を訪ねた。

桜島は噴煙を上げ、火山灰が降るため外を歩く婦人たちは傘をさしている。喉と目に異物感があるのはそのせいだろうか。

「桜島の灰はガラス質で、眼球を傷つけやすいのです。今年は降灰量が多く、火山活動も活発化しているようです」(同市防災火山対策課・志水大和主事)

同市と鹿児島郡桜島町では、"大正爆発"のあった一月一二日を総合防災訓練日に制定、昭和四六年以来、訓練を重ねている。こうした火山対策、砂防、土石流災害復旧などの事業には、毎年八〇億円前後の公費が投入されている。

市内から桜島町営フェリーに乗って、桜島袴腰港へ。約一五分で到着。海峡は三キロたらずの距離。架橋も不可能ではあるまい。島民はどうとらえているのか。

「小学生に島の未来像を描かせると、かならず、橋が登場します。過去、何回か検討されたのですが、現在は白紙の状態でして……」(同町役場広報課)

何となく歯切れが悪い。島の東側(旧東桜島村)は昭和二五年、鹿児島市と合併。こちらに住む某"市民"が、なかば冗談めかしながら、こう言う。

「橋を架ければ錦江湾横断道路が完成し、たいそう便利になるけど、金がかかる。いま、桜島が大爆発すればタダで鹿児島市とつながる。それを期待しとるとよ」

島を離れる人は少なく、先祖の墓には屋根をつけ、大切に守り続けている。ここに愛着を持ち、災害をも逆手に取る「櫻州人」の逞しさを感じた。

「写真タイムス」

▲"大正爆発"で流出した溶岩に追われ、漁船で対岸の鹿児島市に避難する住民。火山灰は、遠く関東にまで達したという。

ベストセラー
少年たちの心をとらえた「立川文庫」「少年倶楽部」

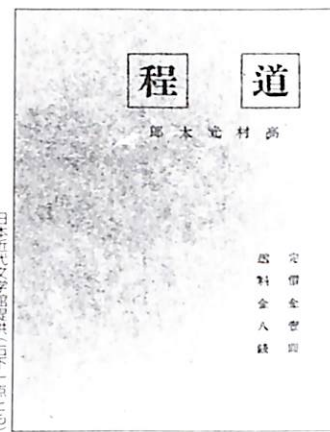
この年一〇月、高村光太郎の処女詩集『道程』が刊行された。独自の口語自由詩のスタイルを確立し、新しい時代にふさわしい詩を提示した。「モナ・リザは歩み去れり／かの不思議なる微笑に銀の如き顫音を加へて／『よき人になれかし』と」というフレーズで知られる「失はれたるモナ・リザ」や「僕の前に道はない／僕の後ろに道は出来る」という冒頭のフレーズで有名な「道程」を含む七六編の詩からなる斬新な詩集だった。

また年末には、愛人との複雑な関係を描いた岩野泡鳴の『毒薬を飲む女』が、童話作家・鈴木三重吉を版元とするシリーズの一巻として刊行された。鈴木の意図は、「現代の多くの作物から、真に傑れたもののみを選抜して、それを低価で提供すること」にあった。それによって新しい文学状況を作り出そうとしたのである。この作品以前に、すでに夏目漱石、森鷗外らの作品が刊行され、いずれも版を重ねる売れ行きを示していた。

ところでこの年は「霧隠才蔵」や「猿飛佐助」などの物語が「立川文庫」として売り出され、少年たちをわくわくさせたが、そこに「少年倶楽部」（大日本雄弁会）が登場した。巌谷小波や後藤新平、幸田露伴などの支持を得て「諸君よ、全世界は我等の舞台である」と高らかに宣言し創刊三万五〇〇〇部でスタートしたのである。塚原卜伝や真田幸村などが登場する歴史ものや、各種軍記ものなど、時代を反映した読み物がずらりと並んでいた。

なおこの年は、トルストイの『戦争と平和』（馬場孤蝶訳）やモーパッサンの『死の如く強し』（中村星湖訳）、ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』（米川正夫抄訳）などの翻訳本が刊行され、また、平塚らいてうらの女性解放運動の諸論文がさかんに発表され、大杉栄らアナーキストの活躍が目立つなど、活字の世界は全体に活気をおびていた。

▲「道程」（抒情詩社、1円）

日本近代文学館提供（右下1点とも）

▲「少年倶楽部」創刊号（表紙絵・斎藤五百枝、15銭）

◀「毒薬を飲む女」（鈴木三重吉方,15銭）

スターと名場面
「アントニーとクレオパトラ」染井三郎の名調子で大評判！

この年イタリアからスペクタクル映画「アントニーとクレオパトラ」（エンリコ・ガッツォーニ監督）が上陸し、大評判となった。戦闘シーンや群衆シーンの迫力もさることながら、時代をはるかにさかのぼった世界がリアルに展開されたのだから、当時の人々にとっては大変衝撃的なことだった。しかも、後々まで語り草になったほどの名調子の解説がついた。染井三郎という人気弁士の解説で、ラストでは「あゝ、壮絶、悲絶、星移り年変り、星霜ここに流れて二千歳……アントニオ・エンド・クレオパトラの一節はこれを以て大団円といたします」と語り、全編を流れる名調子のみならず、この〝エンド〟の絶妙な使い方で「英語を知っている染井三郎」という評価まで加わったと語り継がれている。

またドイツからは怪奇映画「プラーグの大学生」（シュテラン・ライ監督）が輸入され、これも評判をとった。悪魔に魂を売った学生の分身（ドッペルゲンガーである）が、画面に突然登場したり、次第に消えていったりするトリックが効果的に用いられ、観客を楽しませた。

国内では、当時大流行した松井須磨子の「カチューシャの唄」に乗って撮影された「カチューシャ」（細山喜代松監督）が、日活向島が始まって以来のヒット作品となった。

マツダ映画社提供（3点とも）

▲「アントニーとクレオパトラ」から。クレオパトラは、豊満な肉体を持つジャンナ・テリービリ・ゴンザレスが演じた。

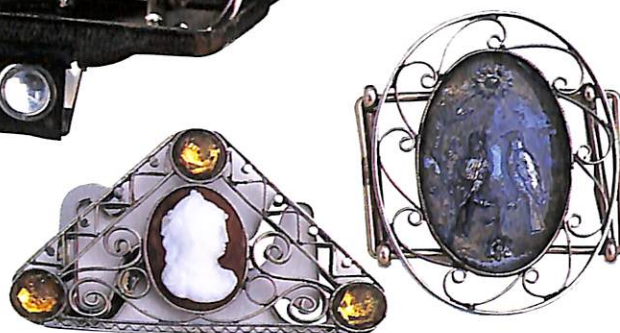
▶「カチューシャ」でヒロインを演じたのは、女形スターの立花貞二郎だった。

▼「プラーグの大学生」で、金ほしさに悪魔の使者と契約してしまう大学生を演じたパウル・ヴェゲナー（左）。

モノ語り'14
「蝶印ハーモニカ」「洗面用湯沸器」「ベント式金庫」第一次大戦の影響で〝国産〟の時代！

◀**付録のついた歯磨きが子どもに**　この年12月、小林商店（現・ライオン）が子ども向けの「ライオンコドモハミガキ」を発売した。刺激を弱くして磨きやすくしたほか、付録として教育カードと絵本をつけたところに特徴があった。48枚続きのカードの絵は、当時トップクラスの画家だった鏑木（かぶらぎ）清方がオリジナルで描いた。1ダース1円30銭だった。

▼**乾板式の小型カメラに人気**　この頃ドイツのイカ社で作られ、輸入された、蛇腹式の小型カメラ「イカアトム53号」は、前蓋を開けるとレンズが撮影状態の位置まで出てくる、セルフエレクティング式という斬新な構造を持つカメラだった。感光材は4.5×6センチの乾板で、この大きさはカメラの名にちなんで〝アトム判〟と呼ばれるようになった。　日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

▲**危ない時代に強い金庫**　この年1月に伊藤喜商店（現・イトーキ）から発売された「ベント式金庫」は、その丈夫さと生産性のよさで群を抜く金庫だった。1枚の厚い鋼板を折り曲げて箱状にしたもので、継ぎ目の少ない、いわゆるモノコックボディの強度を持ち、しかも大量生産も可能という、画期的な金庫だった。耐火性にも優れていた。　イトーキ史料館提供

▲**若い女性は細かいところでもお洒落**　女性解放運動などを背景にして、若い女性たちも活発に動くことが多くなったが、まだ洋服で動きまわる時代ではなかった。そこで、どんなに動いても、和服の襟元がはだけないようにするための「襟留め」のお洒落が流行した。カメオのものや、金属製の凝った模様のものなど、多種多様な楽しみがそこに感じられた。　水島衣裳雑貨博物館蔵／山口隆司

まだ超高級品だった湯沸器

ガス湯沸器は、すでに明治時代の末頃には輸入されていた。図は、明治37年発行の「瓦斯営業案内」に掲載された舶来ガス湯沸器のイラストで、風呂の給湯、シャワー用に売り出された。水が螺旋形のパイプを通る間にガスで熱せられるというシステムで、その利便性の高さは時代を先取りするものだった。

ただし、1台100円以上もする超高級品だったため、実際に使うことができたのは、ほんの一部の特権階級の家庭に限られていた。

▲**すでにあった文明の利器**　この頃には、栓をひねると蛇口からお湯が出てくる「洗面用湯沸器」が東京瓦斯から発売されており、近未来社会の利器として注目されていた。写真は、この年のカタログに掲載された国産品で、定価11円。当時の輸入品と比べるとかなり割安だったが、もっぱら理髪店や料理店といったところで用いられていた。ガス代の方は、1時間で4銭ほどだったという。　がす資料館蔵

▼**ハーモニカも国産の時代に**　この頃まで、日本におけるハーモニカ市場は、ドイツ・ホーナー社のほぼ独占状態だったが、第1次世界大戦のため輸入がとだえ、国産品の製造が急がれた。その需要にこたえて製造販売されたのが、日本楽器製造（現・ヤマハ）の「蝶印ハーモニカ」である。品質がよいため、国内で広く愛用されたばかりでなく、欧米各国へも輸出された。

早川雪洲（二八）

映画「タイフーン」でデビュー 一躍、ハリウッドの"寵児"に

ロサンゼルス郊外に、映画の都・ハリウッドが誕生して三年目。ハリウッドは華やかな映画の世界を現出する夢の工場として、その形を整えつつあった。こうした時代に、単身渡米した早川雪洲（二八）という一人の日本人が、徒手空拳でハリウッドのスターの地位をつかみ取り、波乱万丈の生涯を送ることになる。

その早川が、スターになるきっかけとなった映画「タイフーン」が公開されたのは、大正三年一〇月一〇日のことだった。ふとしたことから恋人を殺してしまった、早川演じる日本人スパイのトコラモ博士が、その罪を着て処刑された日本人留学生に対し、強い罪の意識を抱いて悩み悶死する、という内容のこの映画は、関係者の予想をはるかに越えて大ヒットし、早川は一躍注目をあびたのである。

早川雪洲は、明治一九年六月一〇日、千葉県安房郡七浦村（現・千倉町千田）生まれ。本名は金太郎。網元である早川家の夢は、金太郎を海軍大将にすることだった。そのため、早川は海軍兵学校の予備校と言われた東京の海城中学（現・海城高校）に入学。卒業後、当然のように兵学校を受験したが、運悪く中耳炎にかかり、検査の結果不合格となった。

早川が失意から立ち直り、勇躍アメリカに渡る決意をしたのは、明治四二年、二二歳の時だった。ロサンゼルスやサンフランシスコでアルバイトをしながら学費をため、同年一〇月、シカゴ大学に入学。四年間の学生生活を送った。

映画俳優になろうなどとは、まったく思ってもいなかった早川が、銀幕の世界に入るのは、後の夫人で、当時ハリウッド女優の青木鶴子との出会いによる。鶴子の紹介で、ハリウッドの名プロデューサー、トーマス・インスの目にとまることになったのである。

翌大正四年、セシル・B・デミル監督の「ザ・チート」に主演、その演技と存在感が認められ、大スターの地位を確立する。その後は、ダグラス・フェアバンクスやチャップリンなどと並ぶ大スターとしてハリウッドに君臨し、私生活でも、自宅のグレンギャリ城で毎週ダンス・パーティーを催すなど、派手な生活を繰り広げた。

大正七年に独立プロを設立。また「日本人活動写真俳優組合」の理事長をつとめるなど、アメリカの日本人社会でも大きな存在になったが、吹き荒れる排日運動の嵐の中で身の危険を感じ、一二年、栄光のハリウッドから、その拠点をパリに移した。

以降、早川は日本やヨーロッパを舞台に活躍するが、しかし、ハリウッドの大スターであるにもかかわらず、日本ではあまり高い評価は得られなかった。

映画評論家の佐藤忠男氏はその理由を、「アメリカの評価と日本の評価の違いがあります。大げさな演技もさることながら、雪洲の演じる日本人は、演出とはいえカリカチュアライズされていて、日本人が見るとだいぶおかしい」と語る。

第二次大戦後はハリウッドに復帰して「戦場にかける橋」などに出演。晩年は日本に住んで悠々自適の生活を送り、昭和四八年一一月二三日死去。波乱に富んだ八七年の生涯を終えた。

▲「タイフーン」が大当たりをとるこの年の5月1日、雪洲は青木鶴子と結婚した。鶴子は川上音二郎の姪で、一座の子役として渡米、女優となった。写真は新婚旅行中の二人。

◀映画「タイフーン」より、共演のグラディス・ブロックウエルと。雪洲初の主演作だった。

▶ハリウッドの豪邸で開かれたダンス・パーティー。客室ホールには、数百人の客が入ったという。

早川雪夫提供（左上、下2点とも）

▶トーキー映画「龍の娘」の広告。昭和七年、雪洲の声が聞ける映画としては日本初公開だった。

児玉数夫提供

まさに大地は分かたれた！ 黄熱病との闘いを克服して パナマ運河三四年目に開通

◀1914年8月15日、開通したパナマ運河を初航行する米陸軍の所有船「アンコン号」。同船には、パナマ大統領も乗船していた。
CORBIS・BETTMANN／PPS

一九一四年八月一五日、岩肌が露出している運河を、汽船「アンコン号」（米国籍）がパナマ運河開通を記念して公式航行を行っている。狭い通路の水面は、大西洋の海面から二五・九メートルの高さにある。ここまで、船は階段を一段一段と登るように、閘門で持ち上げられてきている。写真左端に浚渫船が見えるのは、この時点でも、山肌から流れ出る土砂を浚渫しなければならなかったからだ。

エジプトのスエズ運河が開通してから四五年後、一九一四年八月にパナマ運河は開通した。この年の六月には第一次世界大戦が勃発。そのため、大西洋と太平洋を結ぶ長さ六四キロの運河開通という歴史的壮挙は、各国首脳を集めての盛大なセレモニーもなく、実にひっそりと行われた。しかし、この運河が世界の海上交通に与えた影響は大きい。アメリカにとっては、ニューヨーク―サンフランシスコ間の航路が半分以下に短縮された。また世界の海運は、約四パーセントがこの運河を利用し、燃料、日数などコスト面で莫大な恩恵を受けるようになった。そして、二大洋における米艦隊は相互補完が可能となり、中南米、カリブ海地域へのアメリカの影響力は飛躍的に増大した。

パナマ運河の開通には、三〇年以上の歳月がついやされている。その三〇年を大きく分けると、①フランスが工事を行った時期（一八八一～八九）、②工事の中断とパナマの独立（一八八九～一九〇三）、③アメリカが工事を行った時期（一九〇四～一四）、と三つの時期になるだろう。

フランスは約八年間運河開削の努力を続けるが、工事は無惨な失敗に終わってしまう。この失敗で明らかになったのは、基本設計として水平式運河（運河を海面まで掘り下げる）は無理であること、そして意外なことだが、マラリアと黄熱病（一八八四年には、毎月二〇〇人の労働者が黄熱病で死亡）が、工事の進捗をはばんだことであった。

その後、工事はアメリカに引き継がれ、一九〇四年からパナマ運河の開削が再開された。労働者の宿舎、病院、学校の建設。また港の拡充、倉庫の建設、運河に並行して走るパナマ鉄道の複線化など、仕事は山積していた。一方、土木工事の基礎的な準備のほかに、最大の課題として黄熱病の媒体である蚊の駆除があった。マラリアに対してはかなり治療方法も進んでいたが、黄熱病に関しては当時まったく治療法がなかった。そのため、恐怖のまととなり、工事現場から逃げ出す労働者も少なくなかった。医療班は一九〇五年に四〇〇〇人にのぼる衛生部隊を編成して、都市部をはじめ、ありとあらゆる場所の消毒を行い、蚊やネズミの駆除を徹底した。本国では「彼らは土を掘らないで、ネズミを追いかけている」と批判されたが、この消毒のお陰で黄熱病は激減し、後の工事に大いに貢献した。

一九一三年のピーク時には四万三〇〇〇人もの労働者が働き、一億六二〇〇万立方メートルの土や岩石を掘り出し、まさに「大地は分かたれ、世界は繋がれた」という大工事であったが、その成功の第一歩は、徹底した蚊の駆除にあったのだ。

バートン・ホームズ／The Burton Holmes Collection,Department of Art History, UCLA／デジタルハウス

▲1910年、パナマ運河を手作業で開削する労働者たち。1935年までに約5億5000万ドルがついやされた。

美の出会い

官展に対抗する新しい波 有島生馬、梅原龍三郎ら第一回「二科展」を開催！

大正三年一〇月一日から三一日まで、東京・上野公園内にある竹之台陳列館で最初の「二科美術展覧会」が開かれた。応募搬入された五百余点から入選した五三人の一〇八点と、小杉未醒（三三）、有島生馬（三二）、梅原良（龍）三郎（二六）ら鑑査員一一人の六七点、合計一七五点が展示された。

ほぼ時を同じくして、文部省主催の第八回文展が、同じ上野公園内の大正博美術館跡で、一〇月一五日から一一月二八日まで開かれており、両展を比較した美術評がマスコミをにぎわせていた。

この第一回二科展に水彩画二点を応募して落選となった画家・鈴木信太郎が、この時の様子を記している。

「それらは、今まで見なれた文展などの華やかな美人や、風光明媚な名所の油画や、うまそうな果物や花束の静物画にくらべて、いかにも若い情熱の燃え上がるものや、深刻な苦悩を訴えるとでもいうべき、何か未完成な近代的な情感が、ここへ見にくる若い人々の心をとらえたのではなかったかと思う」（『美術の足音今は昔』博文館新社）

美術評論家の瀬木慎一氏は、この二科展を「新しい美術運動の始まり」だと位置づける。

「ヨーロッパの新しい美術の動きを知っているマスコミは、日本でも同じようなことが起こることを期待して、この二科展を歓迎した」という。

明治末から大正初期にかけて、ヨーロッパから帰国した画家たちが、彼の地の新しい画風をもたらし、美術界に新風を巻き起こしていた。こうした追い風を受けて、これまでの写実絵画に限界を感じていた青年画家たちは、大正二年一一月、文展の日本画部門に旧派・新派の一科・二科があるように、洋画部門にも新しい画風を認める二科を作るよう申し入れた。文部大臣・奥田義人に提出された第二科設立を求める建白書には、赤松麟作、岸田劉生、南薫造、岡本一平ら九〇人の画家が署名した。こうした運動が起こった陰には、藤島武二の存在があった。彼らは、文部省が要求を受け入れるものと楽観視していたが、黙殺されたため、行きがかり上、展覧会を開くことになったのである。

そして「二科展」の名称も、その由来を記念して、画家の正宗得三郎が発案してつけられた。しかし、この時点ではまだ二科会結成の意思はなく、「二科会」という独立した団体になるのは、翌四年のことである。東京美術学校の教官でもあった藤島武二は、恩師・黒田清輝の説得と、また黒田への義理もあり、二科会には加わらなかった。

第一回展の目録には、「二科美術展覧会規則摘要」が載っている。その第二項で、「本展覧会へは何人と雖も随意出品することを得、但し同時に文部省美術展覧会に出品せんとする者に限り之を拒絶す」と記し、文展に対抗する在野精神をはっきりとうたいあげている。

こうした意図のもとに開かれた第一回二科展では、原色の氾濫する「屋根」「街路」などを出品した十亀広太郎と、一見いたずら書きのような「女の習作」を出品した硲伊之助に二科賞が与えられた。文展だったら受賞はおろか、入選もあやぶまれる作品に賞を贈り、二科の意気ごみを示したのだった。

大正期は反アカデミズムの潮流が美術界を活性化した時代であり、二科会はそのリーダーとなった。入場者数でも、二科は文展に並ぶ人気を獲得した。以後、大正五年の第三回展にはマチスの作品を参考出品し、大正一二年の第一〇回にはマチス、ドラン、ピカソらフランス現代美術の作品を特別陳列するなど、海外の気鋭の作家を紹介して、若い画家たちを魅了する。また村山槐多や関根正二、小出楢重、古賀春江ら、近代美術の珠玉の画家たちを世に送り出した功績は大きい。

「二科展」は平成一〇年秋で、第八三回展を迎える。会員数は、今や絵画・彫刻部門で二一〇人、デザイン部門で九二人、写真部門で九一人と、合計三九三人を擁する日本美術界の大団体となっている。

▲村山槐多「庭園の少女」。水彩、61×46.4センチ。小杉未醒宅に下宿していた当時17歳の槐多は、小杉の長女・百合子をモデルにしてこの絵を描いた。

▲安井曾太郎「孔雀と女」。油彩、88.5×116センチ。大正4年の第2回展に特別陳列された。

▶第二回二科展の審査を行う鑑査員たち。左から有島生馬、山下新太郎、湯浅一郎、坂本繁二郎、石井柏亭、安井曾太郎。

▲有島生馬「鬼」。油彩、100×80.5センチ。二科展開催の意気ごみを見せた作品。生馬は、明治43年ヨーロッパから帰国後、兄の武郎、弟の里見弴らと「白樺」の創刊に参加。二科展の創立メンバーの一人でもある。この作品にも、彼が傾倒したセザンヌの影響が強くうかがえる。 東京都現代美術館蔵

20世紀博物館

深川江戸資料館

アサリのむき身売りなど一軒一軒に用意されたストーリーで江戸を再現

東京・江東区

桑原茂夫

館名に「深川」という名が冠せられているのは、深川周辺が江戸時代からの寺町で、今もその名残をとどめていることによる。このあたりは時間が分断されることなく、連綿と続いているのである。

さて、館内には、ある町の一角が再現されている。時は江戸時代も後期の天保年間(一八三〇~四四)。所は深川佐賀町下之橋付近。当時の切絵図を参考にして作られた町だ。小売店が並ぶ通りや、居住地である裏長屋があって、その向こうの掘割には、当時の水上ハイヤーとでも言うべき猪牙舟が浮かんでいる。

商店として「干鰯魚・〆粕・魚油問屋」や「八百屋」「米屋」があるほか、二八そばや稲荷鮨、天麩羅などを売る屋台、それに水茶屋、船宿など客商売の家屋も、残された資料をもとにリアルに再現されている。そば屋の屋台は、これをかついで移動し商売をしていたと伝えられているが、実際に組み立ててみると重くて、いちいちかついで動きまわったとは思えなかったと、この博物館の創設からかかわってきた久染健夫さんは述懐する。それで、普段はどこかお屋敷の塀際にでもおかせてもらっていたのではなかろうかという推理も生まれているのだ、と言う。

ところで、店先の様子が特徴的なのは八百屋だ。野菜の並べ方がぶっきらぼうで、大根や人参が切るでも洗われるでもなく、ごろんと並べられている。もちろん模造品なのだが、たとえば大根について言えば、当時仕入れていたであろう〝練馬大根〟を模造したものだ。これには裏話がある。江戸時代の練馬大根がどんなものだったかわからなくて博物館の面々が困っていた時、当の練馬区が、昔の種と栽培法で大根を育てたという話を聞いて、渡りに舟とばかりにその練馬大根を譲り受け、本物の模造品を作ることができたのである。

当時の生活空間を忠実に再現しようと、このようなところにまで気をつかい目を配ったという。家の中の様子もそうだ。どの家も職業や家族構成を明確に設定し、そのうえで部屋の様子や家具、道具の類まで吟味した。言い換えると、長屋の一軒一軒にストーリーが用意されているのである。アサリのむき身を売って暮らしている独身男性の家と、夫婦で暮らしている木挽職人の家とでは、まるで様子が違う。そこから先のストーリーは見るものが自由に思い描けるというわけだ。

ところで、ここでは時間も設定されていて、朝、昼、夕暮れ時などの時間に合わせて、それぞれ二五分間ずつ、照明や音(物売りの声など)の演出が加えられる。しかし、たとえそのような演出がなくても、どぶ板にそって歩くだけで、十分想像力が刺激される博物館だった。

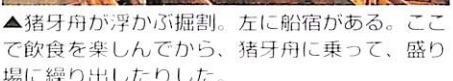
▲ここは近くの木場で働く職人の家という設定で、壁に大きな鋸(のこぎり)がかかっている。 楠田守

▲右に八百屋、左に魚油問屋がある通り。八百屋の店先に練馬大根が並んでいるのが見えるが、思いのほか細目の大根だ。

▲1階フロアから、長屋全体を見渡せる。屋根の上では、模型の猫が鳴き声を出して、雰囲気を盛り上げている。

◀どぶ板のある路地。実際はもっと軒が接近していて、雨水がどぶに流れこんでいたという。

▲猪牙舟が浮かぶ掘割。左に船宿がある。ここで飲食を楽しんでから、猪牙舟に乗って、盛り場に繰り出したりした。

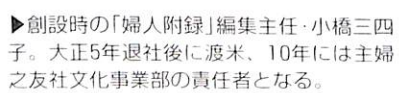
●深川江戸資料館
東京都江東区白河一―三―二八
☎〇三―三六三〇―八六二五
営団地下鉄門前仲町、都営地下鉄森下下車、それぞれ徒歩一五分
開館時間=九時半~一七時
休館日=第二、第四月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料=一般三〇〇円

「読売新聞」に画期的企画登場!
不倫、セクハラ、キャリアガールへの転身願望……
〝新しい女〟の「身の上相談」事情

男に接吻され、「汚された自分は嫁に行けない」と悩む少女、裸体写真を送ってくる不良少女に翻弄されて受験に失敗した青年、生きがいを求めて〝衝動買い〟や〝やけ食い〟に走る人妻等々……。これらはすべて、大正三年五月から「読売新聞」の婦人・家庭欄に掲載された「身の上相談」に登場する人々である。大正デモクラシーの理想と現実のはざまで、庶民は何に悩み、苦しんでいたのか。

不倫、セクハラ、独立……現代と変わらぬ相談内容

「結婚、離婚、家庭の煩いなど精神上の煩悶、婦人の職業問題につき男女に係わらず、思案に余った事の御相談相手となり、及ぶ限りの力を致したいと存じます」

このような「身の上相談」の予告が「読売新聞」に掲載されたのは、大正三年四月二六日。「読売新聞」の婦人・家

▲「身の上相談」第1回目が掲載された、大正3年5月2日付「よみうり婦人附録」。目に入りやすい、中段に組まれていた。

▶創設時の「婦人附録」編集主任・小橋三四子。大正5年退社後に渡米、10年には主婦之友社文化事業部の責任者となる。

▶大正8年、19歳で読売婦人部に入社した望月百合子。断髪・洋装は、きわめて珍しい時代だった。

▼大正4年、「身の上相談」の回答者となった作家・水野仙子。

読売新聞社

庭欄「婦人附録」の〝看板〟となる、この企画の一号記事が載ったのは、それから七日後の、五月二日のことだった。「妻を離縁して」――いかにも庶民の興味をそそるタイトルがついた記事の相談者は、東京帝国大学(現・東京大学)の元学生。他人の中傷がもとで、妻を離縁してしまったことを悔いる内容だった。

「私は明治四五年、帝大の文科を出たものでありますが、東京へ来る早々、或る女に目が着きました。(中略)私は自分で取計らってその女と同棲する事にまで漕ぎつけました。けれども他人の中傷が這入ったものですから、女と別れることを女の父親に申込みました。(中略)私は此事を後で冷静に考えると自覚のない腑甲斐ない事だと後悔していますが、不思議な事でも起こらない限り取返しの付かない羽目になってしまいました」

対する記者の答えは、

「他人の中傷は詰まらないものですのに、貴君がそれに依って動かされて夫婦別れを為すったのは如何にも残念です。かかる場合いかに二本棒(女房に甘い亭主)のように見えても奥様の父上に謝罪してもう一度一緒になられるのが至当です」

相談しにくい悩みに記者が懇切丁寧に答える初の試みが新鮮だったのか、記事は好評で、相談の手紙は一日五〇通近く、東京・銀座にあった読売新聞社を訪れる面会者も一〇人を下らないほどだった。

こうして始まった「身の上相談」は、当初から男女関係に関するものが多かった。タイトルで言うと、昔の彼と逢瀬を重ねる人妻からの「夫のほかに恋人あり」(大正三年五月七日)、芸者遊びに性病と夫の本性を知り、離婚を望む陸軍将校夫人の「夫の暗黒面を発見して」(五月一五日)、婚前の妻の純潔を疑い、自白を強いる夫に悩む女教員の悩み(大正五年六月一一日)など、処女信仰の強さがうかがえる相談も目立つ。

このほか、上司のセクハラを受けた事務員の「猥らな手紙をもらって」、家事手伝いの女性がキャリアガールへの転身を相談した「タイピストになりたい」、体重が一八貫ある女の子の「痩せる法」等々……。さらには、化粧品会社の〝起業法〟を問く女性の手紙も。

不倫から独立開業まで、平成の女性事情と変わらない悩みが、大正期の「身の上相談」に寄せられていたのである。

庶民の理想と現実の落差を埋めた「身の上相談」欄

実は、この「身の上相談」が掲載されていた婦人・家庭欄「婦人附録」も――パリの有力紙「フィガロ」の婦人欄をまねて――一頁すべてを婦人・家庭関係の記事で埋める作りが、当時としては画期的だった。

「ちょうどこの時期は、女子教育の広がりで活字に親しむ女性がふえたり(高等女学校数は三三〇校、生徒数八三〇〇〇人)、明治四四年に平塚らいてうらインテリ女性が発行した同人誌『青鞜』の影響もあって、女性の新しい生き方が注目されていました。そんな時に、『婦人附録』が始められたわけです」

と解説するのは、元毎日新聞記者で『婦人・家庭欄こと始め』の著者、川嶋保良・昭和女子大学教授である。

大正三年四月三日に掲載がスタートした「婦人附録」の編集顧問には、「家庭之友」を創刊した羽仁もと子の夫・羽仁吉一(三三)が就任。編集実務は、「家庭週報」などの編集経験がある小橋三四子(三〇)ら一、三人の女性記者があたった。それに与謝野晶子(三五)、田村俊子(三〇)などの売れっ子の書き手も、社員として参加、という豪華メンバー。

内容は、社会の出来事を解説するトップ記事「婦人と時勢」のほかに、「名流婦人と令嬢の訪問記」(第一回は清浦奎吾新首相夫人など)や、「現代婦人の不断着姿」(第一回は鳩山一郎・東京市議夫人)。「女学校の先生」「婦人の声」といった投書欄もある。五月になって、「身の上相談」が加わり、時事あり、ファッションあり、有名人訪問ありの構成は、〝女性誌のヒナ型〟だった。

▲女性の職域が拡がる中で、事務員や電話交換手を上回る高給取りのタイピストは、若い女性の憧れの職業となっていった。写真は、大正4年に杉本京太により発明された和文タイプを打つ女性たち。

毎日新聞社

ただし、こうした記事を手がける女性記者も差別と無縁ではなかったようで、編集主任の小橋は、後の「読売新聞」で、創設時の状況をこう振り返っている。

「(読売の編集室に初めて来た時)『あなたが編集をやるんじゃありますまいね』と露骨に問いた人さえあります。(中略)『女に使われるのは嫌だなあ』との囁きがそこともなく聞こえてきます」(大正八年一月五日付)

一方で、女性が作る「婦人附録」の評判は、日増しに高まった。読者からは「地方婦人の実情も教えてほしい」といったさまざまな反響が寄せられたという。

結局は、マスメディアが掲げる理想と、現実の庶民生活との落差を埋めたのが、「身の上相談」だった。新聞・雑誌は自由恋愛や女性の社会進出、脱伝統といった大正デモクラシーの理想をあおったが、肝心な庶民、特に女性の実生活は古い価値観に縛られたままだったからである。

「『身の上相談』は、そうしたギャップに悩む人々への〝救済策〟や〝アフターケア〟の役割を担っていたのかもしれません」(川嶋氏)

「身の上相談」は昭和に入っても続き、戦後は「人生案内」と名を変え、スタートから八四年たった今も、「読売新聞」に掲載されている。

▲大正6年に、羽田の日本飛行学校で教習中の女性。「飛行士になりたい」という身の上相談も登場。

毎日新聞社

▲大正2年6月発行の「太陽」増刊、「近時之婦人問題」号。

▲大正2年7月発行の「中央公論」婦人問題号。滝田樗陰編集。

フォト＋日録で再現する365日

「回顧八十年史」

▲台湾「蕃地討伐5ヵ年事業」（7月）総督・佐久間左馬太が、明治43年から先住少数民族を山岳の「蕃地」に追いこみ、銃器押収、帰順工作などを行った。写真は最後の討伐隊。

▲大原奨農会農業研究所、創設（7月）岡山の実業家・大原孫三郎が、農業の科学的研究・開発をはかるため、私財を投じて倉敷に設立。種子学の近藤万太郎ら優秀な人材が活躍した。前列左から3人目が孫三郎。

「イリュストラシオン」

▶ポアンカレ仏大統領、ロシア訪問（7月20日）クロンシュタットでニコライ2世（右）と会談、6月のサラエボ事件以降の対応について、独・オーストリアに対する英・仏・露の三国協商包囲網の徹底を確認した。

「写真タイムス」

▲「大阪将棋界の鬼神」勝つ（7月19日）東京勢を次々破って意気上がる木見金次郎五段（左）が、後の13世名人・関根金次郎八段（46）に香落ちながら勝利。

▶孫文（47）、中華革命党結成（7月8日）日本亡命中に東京・築地の精養軒で旗揚げ、総理に選出された。旧中国革命同盟の胡漢民、陳其美なども出席し、民権主義、民主主義を掲げた。写真前列中央が孫文。

▲河上肇、ドイツ脱出（7月28日）この日、第1次世界大戦が勃発。独・オーストリアの孤立を見こし、ベルリン留学中の河上（34）はロンドンへ向かい、翌年早々帰国する。写真後列右。

大正3年7月

1（水）●米国・ウェストバージニア州で禁酒法発効。
2（木）●東京帝大法科大学、修業年限四年を三年に短縮（8月、京都帝大法科大学も同様の措置）。
3（金）●大正博で両陛下、板谷波山の花瓶など約二万五〇〇〇円買い上げと「東京朝日新聞」に。
4（土）●大審院、浪花節レコード複製に無罪判決。
5（日）●独、オーストリアの対セルビア強硬策を支持。
6（月）●大原農業研究所、岡山県倉敷に創立。
7（火）●神奈川県海老名で真性コレラ、一人死亡。
8（水）●日本亡命中の孫文、東京で中華革命党結成。
9（木）●政友会、東北・北陸各地への地方遊説開始。
10（金）●水路部、日本で初めて航空図の製作に着手。
11（土）●米海軍初の重油専焼戦艦「ネバダ」進水。
12（日）●日本キネトホン、レコード式発声映画を有楽座で公開（「本朝二十四孝」ほか数種）。
13（月）●警視庁、一晩で三四件の強盗・窃盗犯逮捕。
14（火）●米のゴダード、液体燃料ロケットの特許取得。
15（水）●山口歩兵第四二連隊、猛演習で日射病続出。七人死亡、数十人重症。
16（木）●鹿児島・桜島が噴火。溶岩弾受け一人重傷。
17（金）●露、バクー油田で労働者スト突入。これに呼応し各地にゼネスト起こり、軍隊と市街戦。
18（土）●東京地裁、三井物産取締役らに有罪判決。
19（日）●神奈川県が箱根を世界的遊覧地にする計画、と新聞に。
20（月）●ポアンカレ仏大統領、露で対露支援を再確認。
21（火）●東京・烏森駅に急行停車求める市民らが集会。
22（水）●駐中国公使に日置益、任命。
23（木）●オーストリア、セルビアに対し最後通牒。
24（金）●大蔵省預金部の資産・運用を公表。
25（土）●横浜電気鉄道の市への報償金（収入の五%）、前年より減少と新聞に。
26（日）●グレー英外相、セルビア危機について英・露・仏・独・伊の大使会議を提案（独は拒否）。
27（月）●閣議、衆議院議員の兼職に関する方針決定。政府保護下会社への役員任用は不可など。
28（火）●オーストリア、セルビアに宣戦布告（第一次世界大戦始まる）。
29（水）●米・大西洋岸、ケープコッド運河開通。ニューヨーク・ボストン間が約一一〇キロ短縮。
30（木）●東京日本橋の火事で画家・佐竹永陵宅が類焼、谷文晁の画幅ほか所蔵品一〇〇点余焼失。
31（金）●ニューヨーク株式市場、金融不安で閉鎖。
●仏の社会主義指導者、ジャン・ジョレス、暗殺。

ARCHIVE PHOTOS

▲群衆の中のヒトラー（8月1日）ドイツがロシアに宣戦布告。ミュンヘンは歓喜の渦となった。写真は、後にナチス総統・ヒトラーに寵愛されたホフマンの撮影。群衆の中に当の「総統」がいた（円内）。

PPS

▶ウィルソン米大統領、中立宣言（8月4日）欧州紛争には干渉せず、と国民に宣言。しかし1917年、「ルシタニア号」事件を契機に結局、参戦。

「イリュストラシオン」

▲ローマ教皇・ピウス10世逝く（8月20日）11年間の在任中に法典改正、グレゴリオ聖歌の復興、近代主義の排斥など、重要な改革を行い、1954年に聖人とされた。79歳。

毎日新聞社

▲日独、戦争へ突入（8月23日）東シナ海で商船を攻撃された英国が、同盟国・日本に独艦艇攻撃を依頼。「最後通牒」に返答がなく、中国での権益をねらう日本が宣戦布告（写真）。

▶タンネンベルクの戦い（8月26日）ヒンデンブルク将軍が率いる独軍が、東プロイセンのタンネンベルクで三方から露軍を包囲、5日間におよぶ殲滅作戦を敢行。独軍の倍の兵力を誇った露軍は、13万人もの死傷者を出し敗北。将軍は国民的英雄に。

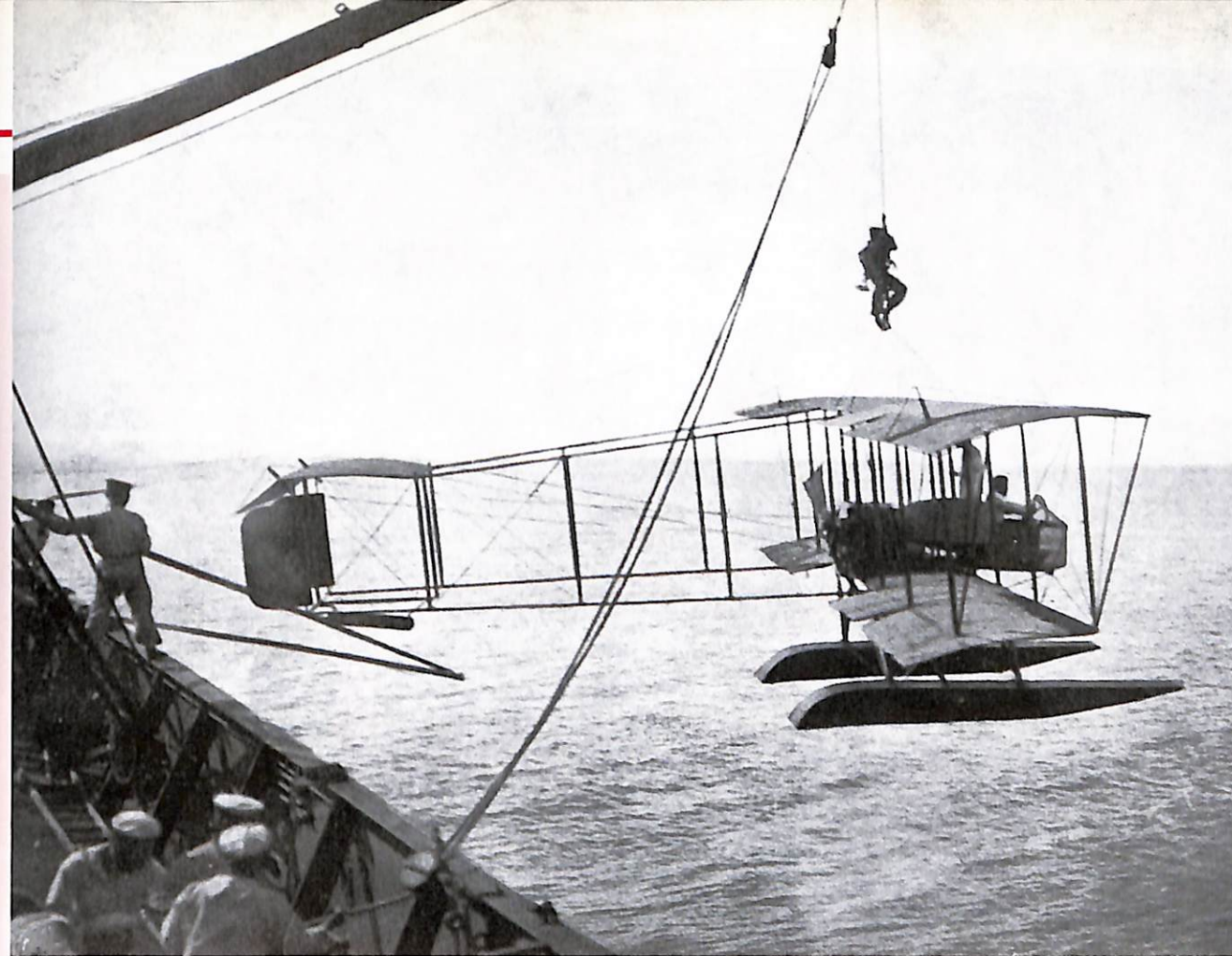
◀京都駅新装（8月15日）翌年の大礼に備え、ルネサンス式木造2階建ての新駅を完成。貨物の扱いを分けるため、隣接する梅小路に貨物駅、操車場を設置。

大正3年8月

1（土）●南満州鉄道、大連ヤマトホテルをオープン。
●独が露に宣戦布告（3日、仏にも）。
2（日）●英、モラトリアム（支払猶予）令公布。
3（月）●欧州大戦勃発で東京・大阪の株価暴落。
4（火）●ウィルソン米大統領、欧州大戦に中立宣言。
5（水）●米国・オハイオ州に初の電気交通信号。
●三井合名が理事長制採用。団琢磨が初就任。
6（木）●中国が欧州大戦に対し中立を宣言。
7（金）●グリーン英駐日大使、加藤高明外相に独武装商船撃破のため日本の対独参戦を要請。
8（土）●元老・大臣会議で対独参戦を決定。
9（日）●日本郵船「三河丸」、中国出兵に徴用される。
10（月）●第一回水上選手権（大日本体育協会主催）、東京・大森海岸で開催。
11（火）●ケーベル元東大教授、大戦で独への帰国ができず、露総領事館内で生活始める。
12（水）●英国、戦地局限条件で日本参戦に同意。
13（木）●大阪鉄工所、日本初の縦肋骨構造船「北京丸」（大阪商船の貨物船）竣工。
14（金）●独軍、ロレーヌで攻勢開始（仏軍後退）。
15（土）●政府、独に膠州湾租借地の日本への交付、武装解除要求の最後通牒。
●パナマ運河、開通。
16（日）●京城（ソウル）―元山間に京元鉄道開通。
17（月）●東京―グアム島間の海底通信線が断線。海外とは長崎経由などで通信。
18（火）●海軍兵学校、「宗谷」「阿蘇」を練習艦に決定。
19（水）●大阪の北浜銀行、日銀から追加救済融資を拒否され休業（北浜銀行事件）。
20（木）●名古屋の明治・名古屋・愛知の三銀行取り付け。
21（金）●東海道本線・山北駅で運転手のミスから客車同士が衝突し大破損、乗客二六人重軽傷。
22（土）●帝国精練と石川県精練が合併、倉庫精練設立。
23（日）●日本が対独宣戦布告。第一次大戦に参戦。
24（月）●留岡幸助、北海道社名淵に教育農場のある家庭学校分校（私立教護院）創立。
25（火）●九州方面に台風。鹿児島では五〇〇戸全壊。
26（水）●タンネンベルクの戦い（独軍が露軍を撃退）。
27（木）●内務省、戦時医薬品輸出取締令を緊急発令。
28（金）●政府、東京株取引所の申請する直取引（現物取引）の開始を却下。
29（土）●京成電気鉄道、押上―市川真間間が開通。
30（日）●独飛行機がパリに爆弾投下（世界最初の空襲）。
31（月）●東京に大型台風、荒川氾濫で六五〇〇戸浸水。

PPS

▲リョコウバト絶滅(9月1日)米・オハイオ州・シンシナティ動物園の最後の1羽が死んだ。19世紀初頭には約50億羽もいたが、羽毛利用などの乱獲で激減。

▲片山潜(54)、米国へ脱出(9月9日)東京市電ストでの検挙から出獄し、渡米。後に米国共産党の創立に参加。在米社会主義者団と(前列左から二人目)。

「写真通信」

▲日本軍、青島攻撃(9月2日)独軍東洋艦隊の根拠地がある山東半島北部・竜口に上陸。11月占領、膠済鉄道奪取をめざした。写真は元英商船「若宮丸」に搭載、日本軍実戦初の飛行機となったファルマン式水上機。

日本郵船歴史資料館提供

▲豪華貨客船「諏訪丸」竣工(9月11日)日本郵船が、第2次欧州航路を増強するため建造。1万1758トン、船客定員372人。昭和18年に戦火で被災、沈没した。

▶夏目漱石(47)『こゝろ』刊行(9月)「朝日新聞」に連載し、岩波書店から出版。「自己の心を捕へんと欲する人々に」と広告文も書いた。写真は子息の純一(左)、伸六と。

▶独軍、アントワープ進撃(9月)領土の自由通過を求められ、ベルギーは拒否。激しい砲撃が始まり、10月、古都陥落。写真は大聖堂から避難するルーベンスの「聖母被昇天」。

「イリュストラシオン」

大正3年9月

1(火)●米国・オハイオ州の動物園で地球上最後のリョコウバトが死に、ひとつの種が絶滅。
2(水)●横山大観ら、日本美術院を再興、開院式。
●日本軍、山東省竜口に上陸開始。
3(木)●中国、独の租借地などの戦争区域を設定し、中立不適用を各国に通告。
4(金)●臨時帝国議会開院式。
5(土)●青島の独軍攻撃に、海軍のモーリス・ファルマン式水上機参戦。日本初の飛行機実戦使用。
●英・仏・露、ロンドンで単独不講和を宣言。
6(日)●名古屋・鶴舞公園での市電値下げ市民大会が暴動化。三日後、軍隊により鎮圧。
●仏軍、独軍に総反撃(マルヌの戦い)。
7(月)●仏、パリのタクシーが動員されマルヌ河畔の前線に兵士六〇〇〇人運搬、鉄道輸送を補う。
8(火)●各宗教代表者、文部省で戦時宗教対策協議。
9(水)●片山潜、米に亡命。米の社会主義運動に参加。
10(木)●対独参戦のため、五一〇〇万円の臨時軍事費特別会計法を公布。
11(金)●高知県西部の台風で約一二〇〇戸全壊。
12(土)●戦時海上保険補償法、公布。大正六年廃止。
13(日)●京都桃山御陵で戦勝祈願式、五〇〇〇人参列。
14(月)●生糸相場、明治三三年以来の安値を記録。
15(火)●三越呉服店本館落成、デパートで日本初のエスカレーター設置(10月1日開店)。
16(水)●戦時下、国交に影響ある新聞報道に禁止命令。
17(木)●神奈川・鶴見川沿岸諸村、一三日の洪水被害が甚大で、河川改修の早期完了を県に陳情。
18(金)●農商務省、工業原料品(黄燐・赤燐・苛性ソーダなど)の輸出を制限、許可制とする。
19(土)●友愛会、第一回協議会開催。
20(日)●ベルリンで拘禁の日本人留学生ら、ビフテキ・ビールなどの優遇、と新聞に。
21(月)●仏大統領、独のランス聖堂砲撃に抗議。
22(火)●波多野宮相、宮中での内国品使用励行を内訓。
23(水)●英軍、青島攻撃参加のため上陸開始。
24(木)●灘・西宮の酒樽製造の工員が賃下げ反対スト。
25(金)●輸出または移出売薬取締令、公布。
26(土)●中国、日本の山東鉄道占領を中立侵害と抗議。
27(日)●独飛行機、エッフェル塔に爆弾投下。
28(月)●日本海軍、膠州湾砲撃開始。
29(火)●朝鮮総督府、戦時中工業原料品および石炭輸出に関する府令発布。
30(水)●小樽市上水道、完工(工期六年八ヵ月)。

証言・あの日この日
徳富蘇峰(51)

5月24日(日) 〈其後病状は日一日と悪化し、寧ろ入院せしむるが方がよろしからんとの事で、五月の二十四日には愈ゝ牛込見附の傍なる朝倉病院に入院する事となつた。殆ど一家総動員で病院に赴き、予自身も手術をせずして治療をするとなれば、少なくとも一ケ月以上を要するであらうと考へ、取りかゝつた国民史の資料も、看病の暇には必要あらうと思つて、行李一杯それを携へて病院に赴いた〉(徳富蘇峰『弟　徳冨蘆花』)

前年の暴動で焼討ちにあった「国民新聞」の社長兼主筆で、論壇の大御所だった徳富蘇峰は、この頃、政界活動の方は引退し、言論人として国民史(『近世日本国民史』)の執筆に専念しようとしていた。しかし91歳の父が発病、この日入院、翌日急死。蘇峰は強い衝撃を受け、仕事もなかなか手につかなくなる。(山崎行太郎)

「写真タイムス」

▲鍛冶橋完成(10月25日)宮城前馬場先門から京橋にいたる外堀に、石造の橋が架かり、秋晴れのもと、盛大な開通式が開かれた。鍛冶橋は、もと江戸城の外郭門のひとつが設置され、近辺に幕府御用絵師・狩野家の屋敷があった。写真は繰り出した、渡り初めの人々。

▶竹久夢二(30)、港屋絵草紙店開く(10月)抒情的な美人画を描く一方、東京・日本橋に自作の便箋、人形、うちわ、浴衣などを売る店を持った。ここで客として来た、最愛の女性、彦乃と出会う。写真は店番の夫人・たまき。

竹久夢二美術館提供

▲月刊「平民新聞」創刊(10月15日)大杉栄・荒畑寒村らが主宰。10ページ。第1ページには、「大逆事件」で死刑になった幸徳秋水の墓の写真を掲載、即日発禁。第4号をのぞいて毎号発禁処分を受け、6号で廃刊に。

三越提供

◀三越呉服店、新館開店(10月1日)東京・日本橋に横河民輔設計の鉄筋コンクリート造り、ルネサンス風の5階建てが完成。延べ床面積約4000坪。入り口には青銅製の獅子1対がおかれた。写真は日本初のエスカレーター。

毎日新聞社

◀天皇家コック長、誕生(10月)パリのホテル「リッツ」で修業中の秋山徳蔵(26)を、宮内省が大膳寮司厨に任命。翌年の即位の大礼で、外国の賓客をもてなすためだった。以降58年間、天皇の台所を預かった。

大正3年10月

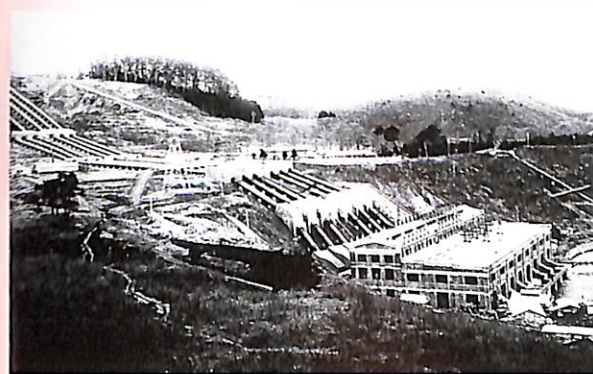
1(木)●帝劇洋劇部、オッフェンバックの喜歌劇「天国と地獄」を初めて口語訳詞で上演。
●二科会、文展から独立し第一回展開催。
2(金)●東京図書出版協会結成。
3(土)●農商務相・大浦兼武、六大都市の貿易業者らを招いて貿易振興会議開催。
4(日)●独の歴史学者・経済学者ら、九三人の知識人が宣言発表。独軍のベルギー中立侵犯を弁護。
5(月)●渋沢栄一ら国産奨励会設置の趣意書を発表。
6(火)●福岡・久留米に俘虜収容所設置。
7(水)●衛生試験所(東京・大阪)に臨時製薬部設置。
8(木)●岐阜・中津町の小作人四〇〇人、大会を開き中央製紙の汚水被害反対などを主張。
9(金)●台湾高砂族が蜂起、警部補ら二二人殺害。
10(土)●日本軍、中国・山東省の博山炭田占領。
11(日)●出征兵士への慰問金総額、陸軍三万五八〇〇円・海軍一万七〇〇〇円と新聞に。
12(月)●日銀、救済資金(取引先銀行の取り付け事故などの際に融資)の利率適用法を制定。
13(火)●日独両軍使、青島の非戦闘員救助に関し協定。
14(水)●東京・芝の伝染病研究所を文部省へ移管(所長に無断の決定に抗議し、北里所長以下辞職)。
●日本軍がサイパン島占領、赤道以北の独領南洋諸島占領完了。
15(木)●大杉栄・荒畑寒村ら「平民新聞」創刊。
16(金)●東武鉄道、佐野―葛生間使用開始。
17(土)●東京・大塚の製靴工場で賃上げ要求スト。
18(日)●巡洋艦「高千穂」が膠州湾で独の魚雷を受けて沈没。乗員二七一人死亡。
19(月)●蚕糸業同業組合の設立認可。
20(火)●住友倉庫、大阪市所有の築港埠頭地を賃借。
21(水)●日光・中禅寺湖畔で出火、旅館一二軒全焼。
22(木)●米国、現存の戦争法遵守を全交戦国に送付。
23(金)●日赤救護班の看護婦ら、露に向け東京を出発。
24(土)●バーナード・リーチ、日本滞在五年間の作品展開催、と新聞に。
25(日)●高村光太郎、処女詩集『道程』刊。
26(月)●大阪電気軌道、本線貨物営業を開始。
27(火)●露軍、ポーランドで反撃。
28(水)●大隈首相、非政友各派議員招き増師案を説明。
29(木)●早・慶・明三大学が野球リーグ初組織。
●独・トルコ艦隊、露のオデッサを砲撃。
30(金)●ブラジルのノルエステ鉄道開通。
31(土)●京浜電鉄、不法解雇めぐり七〇人がスト。

▲**志賀直哉(31)、結婚(12月)**新妻は「白樺」同人・武者小路実篤の従妹、康子。すでに『暗夜行路』の前身『時任謙作』を執筆、大作家への道を歩み始めていた。

「写真通信」

▲**浅草本願寺、ドイツ兵俘虜収容所に(11月22日)**日本軍の青島攻撃にともない、陸軍省が全国9ヵ所に施設設置を指令。東京には314人が収容され、周囲は野次馬で大混雑になった。

▶**黒岩周六(涙香)、欧州出兵論(12月21日)**シーメンス事件を批判し、新聞記者の代表として山本内閣弾劾で活躍した黒岩が、大隈内閣の増師案を支持し、欧州出兵を主張。

▼**独巡洋艦「エムデン」敗れる(11月9日)**英商船22隻を撃沈するなど、インド洋を舞台に暴れまわってきたが、豪巡洋艦の砲撃を受け、ココス諸島沖で座礁した。

東京電力提供

▲**猪苗代第1発電所操業開始(11月12日)**東京への本格的な送電は翌年3月。超高圧遠距離送電の先駆けとなり、東京電灯会社の発電量約6万キロワットの半分を担った。

▶**青島陥落を祝う(11月11日)**前月、総攻撃を開始した日本軍が、独軍要塞を攻略。宮城前に提灯行列の人波があふれ、東京市祝賀会では花電車が走った。写真は数寄屋橋で。

「写真タイムス」

「太陽」

大正3年11月

1(日)●「少年倶楽部」創刊(大日本雄弁会)。
●岩越線(郡山―新津間)全通し、同線経由の上野―新潟間が直通運転開始。
2(月)●営業税法施行規則改正、公布。
●露、トルコに宣戦布告(5日、英・仏も)。
3(火)●米国のネバダ・モンタナ両州で、婦人参政権のための憲法修正を住民投票で承認。
4(水)●田中智学、国柱会設立(日蓮の教えに基づき、教行統一をめざす国家主義思想団体)。
5(木)●英、キプロス島併合を宣言。
6(金)●関西電気倶楽部発足。
7(土)●日本軍、青島を占領(8日、宮城前から英大使館へ祝賀の提灯行列)。
8(日)●大日本蚕糸会臨時大会、蚕糸金融要求などを決議。
9(月)●インド洋の脅威だった独巡洋艦「エムデン」が豪巡洋艦「シドニー」に撃破される。
10(火)●海軍、中国・膠州湾の封鎖を解除。
11(水)●陸軍省、九州・大阪・東京など全国九ヵ所に俘虜収容所設置を指令(独俘虜は四四六一人)。
12(木)●猪苗代水力電気、開業。
13(金)●米大統領、パナマ運河の中立性を主張。
14(土)●トルコのスルタン、交戦国に聖戦宣言。
15(日)●第一回国産奨励展、東京・上野公園で開催。
16(月)●日本軍、青島入城式。
17(火)●青島の前独総督・ワルデック一行、門司に到着。
18(水)●第八回文展、終了(入場者前年より二万人減)。
19(木)●スウェーデン、金輸出を禁止。
20(金)●米国で旅券申請に顔写真添付を義務づけ。
21(土)●臨時陸軍検疫所官制、公布。
22(日)●上野・寛永寺で徳川慶喜一周忌の墓前祭。
23(月)●米軍、メキシコのベラクルスから撤退。
24(火)●化学工業製品の輸入途絶に対応するための化学工業調査会、初会合。
25(水)●駐米大使・珍田捨巳、カリフォルニア州の外国人土地所有禁止法に四回目の抗議書提出。
●夏目漱石、学習院で「私の個人主義」を講演。
26(木)●東海商業銀行が取り付け。
27(金)●東京市の電灯料、市電・東電・日電の競争過熱で割引合戦と新聞に。
28(土)●北海道・新夕張炭坑でガス爆発、四二二人死亡。
29(日)●板垣退助主唱の台湾同化会、現地での理解を得られる形勢で発会式へ、と新聞に。
30(月)●連合艦隊を常設するための艦隊令、公布。

「写真通信」

北川太一提供

▲**高村光太郎(31)・智恵子(28)結婚(12月)**晴れて披露、東京で二人の生活を始めた。10月、「僕の前に道はない」で有名な処女詩集『道程』を出版、創作欲は旺盛だったが貧しかった。写真は、駒込のアトリエで。

◀**福岡・方城炭坑でガス爆発(12月15日)**突然の大音響とともに筑豊屈指の大炭坑が黒煙と炎に包まれ、坑道が崩壊。死者687人は、日本最大の炭鉱事故。

▼**大隈重信首相、衆議院を解散(12月25日)**「極東の平和のため」の熱弁むなしく、2個師団増設案が野党の政友会、国民党に否決されたため。しかし、翌年3月の総選挙で与党・立憲同志会は大勝、国会を通過させた。

「写真通信」

「写真タイムス」

▶**曾我廼家五郎(37)、ベルリンから帰国(12月21日)**喜劇の勉強のためヨーロッパをめぐっていたが、第1次大戦勃発で急遽脱出。写真は翌年1月、東京駅で歓迎を受ける五郎。後に「五郎劇」を組織、松竹新喜劇の始祖となった。

「写真タイムス」

▲**フランスに日本赤十字団出発(12月16日)**第1次大戦で負傷した兵士のため救護班を結成、三国協商各国に向かった。写真は、新造の「伏見丸」で横浜を発つパリ派遣団31人。中央が塩田医長。凱旋門に接したアストリア・ホテルを病院とした。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

◀**メキシコ解放軍の両首領、初会見(12月4日)**ウエルタ大統領失脚の6月以降、革命諸派による内戦が続いたが、北部軍のビリャ(写真・中左)、サパタ(中右)両派が国土を制圧。サパタの農地改革案を基本として一致した。

大正3年12月

1(火)●沖縄県営軽便鉄道、那覇―与那原間開業。
2(水)●埼玉県川越の第八十五銀行が取り付け(年末にかけ各地中小銀行で取り付け起こる)。
3(木)●加藤高明外相、駐中国公使・日置益に「対華要求二一ヵ条」を訓令。
4(金)●内務省、臨時薬業調査委員会設置。
5(土)●東京・浅草の今戸公園開園式。
6(日)●山田耕筰、初の管弦楽作品(「かちどきと平和」など)を東京・帝国劇場で発表。
7(月)●「対支連合会」から内閣反対派の黒竜会・内田良平らが分裂し「外交国民同盟会」と改称。
8(火)●英巡洋艦隊、オークランド島沖で独巡洋艦隊を全滅させる(オークランド島沖海戦)。
9(水)●伊、中立の代償としてオーストリアに南チロル割譲を要求。
10(木)●「徳島丸」、日本船初のパナマ運河通過。
11(金)●東京共立銀行、取り付けを警戒して臨時休業。
12(土)●普通教育の普及改善目的の教育基金令、公布。
13(日)●古典研究会、東京・築地の水交社で結成。
14(月)●明治神宮奉賛会、結成。
15(火)●福岡・方城炭坑でガス爆発、六八七人死亡(これまでの日本の炭鉱事故で最大最悪)。
16(水)●愛知・伊良湖に日本初の無線電話局設置。
17(木)●デロハ六二三〇形電車、完成。
18(金)●英、エジプトを保護領化と宣言。
19(土)●新潟県佐々木村で小作人四〇〇人が小作料引き下げ要求し地主宅に押しかける。
20(日)●東京駅開業、東海道本線の起点となる(新橋駅は貨物専用となり、汐留と改称)。
21(月)●全国新聞記者大会、師団増設反対を決議。
22(火)●大阪朝日新聞、調査部を新設。
23(水)●政府、蚕糸業救済法案提出(議会解散で廃案)。
24(木)●大阪商船、「大信丸」で大阪―青島間運航開始。
25(金)●衆議院、予算案の軍艦建造費可決。二個師団増設費は国民党の反対で否決され、解散。
26(土)●天王寺の大阪市立動物園、開園式(翌年開場)。
27(日)●内国通運、東京―上野駅間の手小荷物自動車連絡輸送を鉄道院から請け負う。
28(月)●日本蓄音器商会、複製レコード著作権侵害事件の上告を大審院で棄却され、敗訴。
29(火)●伊藤忠、設立(伊藤糸店を継承)。
●袁世凱、大総統選挙法を修正(任期一〇年)。
30(水)●東京駅などに選挙区へ急ぐ前議員、と新聞に。
31(木)●日本郵船、欧豪両航路の補助命令を更新継続。

俄楽多市

三面記事

今も昔も横柄なものの象徴

「官僚」。それまで「官員」とか「官吏」と呼ばれていたが、この年、「官僚」という言葉が広がった。ただし横柄とか、杓子定規など、軽蔑的なニュアンスをこめて使われた。

「流行歌」。この年、ニッポノホン・レコードから神長瞭月の「流行歌・松の声」が発売された。学問にあこがれて上京した女学生が転落していく様子を歌ったもので、「ああ、夢の世や、夢の世や」という文句が受けた。これが流行歌と称した第一号で、このレコードが売れたところから「流行歌」という言葉も流行した。

「ナッチョラン」。「青島よいとこだれがいうた、うしろはげ山、前は海……ナッチョラン」という「ナッチョラン節」が流行。親が子を叱る時、物価高や泥まみれの道路への怒りなど、いろんなことに「ナッチョラン」が乱発された。

「劣悪文学」。猥褻な小説のこと。この年上半期の発禁本（猥褻関係）は七〇件で、数としては少なかったが、そのスレスレのものが激増、それらをさして「劣悪文学」と言った。

▲大正3年、横浜小学校の工作の時間。明治時代の知識詰めこみ主義への反省の声も起こり、子どもの日常生活を考えた教科内容に力が入れられた。

毎日新聞社

衣

お洒落の革命 ブラジャー登場

アメリカのメアリー・ジェーコブが、ブラジャーの特許を取った。ニューヨークの社交界にデビューしたばかりの彼女は、あるダンス・パーティーの前に、ハンカチ二枚と少量のリボンを使ってブラジャーの原型を考案した。友人からも製作を頼まれ、知らない人が「見本がほしい」と言ってくるので、数百個のサンプルを作り、特許を申請したのである。

しかし、自分で売るのはむずかしいと考え、この特許をコルセット会社に売却した。その値段は一万五〇〇〇ドルだったが、やがて約一五〇〇万ドルの価値があったとみなされるようになった。

（J・トレーガー『トピックス＆エピソード 世界史大年表』）

▶幼稚園児のカバン。郵便配達人が使ったような胴乱型のものを肩からかけた。

毎日新聞社

▲「大阪パック」1月1日号に「自働階段」（エスカレーター）で入場する「夢の飛行場」のマンガが登場。10月には東京・日本橋の三越呉服店で初のエスカレーターが現実のものとなる。

日本漫画資料館提供

CM100年 新聞CM「祝青島陥落――ミツワ石鹸」（丸見屋商店）

祝青島陥落

青島は陥落せり

我が陸海軍は攻囲の最初より、近世文明の産み出したる凡ての機関を利用する事に於て、寸末毫厘の遺漏だもなかりき、之れに加ふるに壮烈鬼神をも泣かしむ可き我が将卒の忠勇あり、国民一般が其の予期せるよりも早く青島陥落の快報を受領するを得たるは、豈に偶然ならんや、殊さらに然して此に出らず

我が丸見屋商店も亦、あらゆる文明の設備を応用する点に於て、他に比し常に一日の長ある事を誇り、店員一同全力を盡して各其の分担せる業務に従ひつゝあり鑑みて常に其の予期せる目的を達し、国家経済の上に於て寸時も忽にする能はざる化学工業の独立を遂げ、輸入防遏国産奨励の実を挙ぐる、亦甚だ遠きにあらざる可きを信ず

今青島陥落の報に接し、斯の感特に深きものあり、従つて之れを祝賀し慶喜するの情更に一層痛切なるを覚ゆ、即ち茲に

我が忠勇なる陸海軍の将士に対し満腔の熱誠を捧げ感謝の意を表す

本舗 ミツワ石鹸 東京 丸見屋商店

▲「あらゆる文明の設備を応用する点」が、青島陥落にも石鹸作りにも通じると自画自賛。

食

「偏食」の新語も作った 栄養研究の総本山発足

大正三年、佐伯矩は栄養研究を独立の事業とする私立「栄養研究所」を、東京・芝に設立した。後に国立に移管され、多くの栄養学者や実践家を生み出した栄養研究所の、これが出発点であった。もっとも研究所とは名乗ったが、初めの数年はアミノ酸醤油を試作したり、栄養飲料の「ビータ」を企業化するなど、もっぱら研究所維持のための費用捻出に力が注がれた。

このため、学者による評価は賛否あいなかば、というより批判の方が多かった。しかし「偏食」「栄養指導」などわかりやすい新語の創作、胚芽米・七分づき米の奨励、食品栄養価要覧の作成など、博士の仕事がその後のわが国の栄養行政におよぼした影響は大きい。

（萩原弘道『日本栄養学史』）

三面記事

飛行機が初めて戦場へ

第一次大戦の青島攻撃で、飛行機が初めて戦争に使われた。その様子を、新聞は次のように伝えている。

「九月五日、ついに時機は到来した。わが飛行将校はかねて某船上に組み立てておいた水上飛行機に金子養三少佐、和田秀穂大尉、武部鷹雄中尉の三将校が搭乗、推進機の音もさわやかに、はるか膠州湾を望んで中空高く舞い上がった。

さるほどに金子少佐の操縦せる同機はあるいは高く、あるいは低く、東に西に、北に南に縦横に、青島の市街より要塞、兵営の上を飛べば、和田大尉はいちいち、要所要所を図に書き入れる。さらに武部中尉は少佐に求めて七〇〇～八〇〇メートルまで下降し、あらかじめ用意せる爆弾右手につかみ、敵の海兵大隊の兵営、無線電信所などをねらって投ずれば、すさまじき音響を発してみごとに爆裂した。

かくして二時間ばかりの飛行を終えて帰ってきたが、機体を検すれば驚くべし、翼には一・五個の小銃弾が貫通していた」

（「時事新報」九月七日）

▶一一月、市立大阪高等商業学校（現・大阪市立大学）創立三五年記念大会で、語学サークルの学生が演じた西洋劇。

データ

電気がつけば一六円 学生下宿の料金

東京市中の下宿料は、本郷が高く神田が安く、牛込や芝は本郷と匹敵する。本郷でも（東大に）最も近いところは、電話があり電気がつくという家は食費が九～一〇円、間代は日当たりや通風にもよるが、四畳半で三～四円、六畳で四～五円、八畳で七円。このほか電気代や炭代合わせて四円、最低でも一六円はいる。

牛込区では早稲田方面が高く、食費が九円、部屋代は畳一畳七〇～八〇銭見当。それでいて、食事は他地区よりかなり落ちる。これは下宿する学生のわりに下宿屋が多いからで、下宿屋は早稲田付近だけで二〇軒、全区で三〇〇軒もある。このため空き間が多く、なかなかふさがらないところから、割り高で、まずくて高いものを食わせるのである。

（「生活」三月号）

社会

女学生の写真が決め手 結婚媒介所の乱立

昨今、東京市中には結婚媒介を専業とするものが乱設され、その数六〇を突破した。しかし二、三をのぞいては妾の周旋を本業とするもので、妾の周旋でも話がまとまれば、双方から結納金と称する金を取って、全部を謝金とする内規あり。

競争激しき中で、女学校の生徒の写真を数多く備えれば、客は女学生を妾にできるものの如く錯覚して営業成績も向上するとあって、各媒介所とも女学校の女教師を引き入れて、女学生の写真集めに奔走しているという。

（「風俗画報」一二月五日号）

▶洲崎遊廓の娼妓の慰安会。二月一九日から三日間、余興の喜劇に笑い興じた。

◀英国キネマカラーの特許権を得て創立された天然色活動写真（天活）の第一回作品「義経千本桜」が、四月三日に公開。

はやり歌

故郷を離るる歌

訳詞 吉丸一昌　曲 ドイツ民謡

園の小百合　撫子
垣根の千草
今日は汝を眺むる最終の日なり
思えば涙　膝をひたす
さらば故郷　さらば故郷
さらば故郷
故郷さらば

つくし摘みし岡辺よ
社の森よ
小鮒釣りし小川よ　柳の土手よ
別るる我を憐と見よ
さらば故郷
さらば故郷　さらば故郷
故郷さらば

ここに立ちて
さらばと別れを告げん
山の陰の故郷　静かに眠れ
夕日は落ちて　たそがれたり
さらば故郷
さらば故郷　さらば故郷
故郷さらば

▶訳詞者・吉丸一昌は東京音楽学校教授で、文部省唱歌教科書編纂委員でもあった。明治末からこの年にかけて、唱歌作詞集「新作唱歌」全一〇巻を上梓した。

朧月夜

作詞 高野辰之　作曲 岡野貞一　文部省唱歌

菜の花畠に　入日薄れ
見わたす山の端　霞ふかし
春風そよふく　空を見れば
夕月かかりて　におい淡し

里わの火影も　森の色も
田中の小路を　たどる人も
蛙のなくねも　かねの音も
さながら霞める　朧月夜

▲作詞者・高野辰之が生まれ育った長野県永田村（現・豊田村）は、菜の花が一面に咲く村で、菜種油が村の特産品だった。写真は、彼の終焉の地、野沢温泉に建てられた歌碑。

この年の初もの

赤青式の交通信号 米・オハイオ州に設置

●**自動車レース**　東京・目黒競馬場で行われ、ロサンゼルス在住の日本人が四台のレーシングカーを走らせた。

●**ニュース映画**　「東京シネマ画報」という会社が、四月から月二回ずつ制作。

●**遊覧船**　秋田県十和田湖に気動遊覧船「南祖丸」が登場。

●**国産ホルモン剤**　山口八十八らが作ったもので、「スペルマチン・オホルミン・ペプシン」と命名された。

世界の動き

“火薬庫”に火をつけた「黒手組」の二発の銃弾
オーストリア皇太子暗殺が引き金に
第一次世界大戦勃発！

サラエボの空に轟いた二発の銃声。それは四年三ヵ月にわたり、世界三一ヵ国を巻きこんだ世界大戦の引き金であった。参加兵力六四〇〇万人、負傷者約二〇〇〇万人、戦死者約一〇〇〇万人、ヨーロッパを主戦場に、帝国主義諸国間の矛盾と対立がいっきょに爆発したものであった。

▲皇太子夫妻狙撃直後の犯人・プリンチプ（右から二人目）。スラブ統一をめざす「青年ボスニア」の一員だった。 Ullstein ユニフォト・プレス（左上とも）

オーストリア皇太子暗殺 犯人はセルビア人の学生

第一次世界大戦の導火線に火がついた。事件が起きたのは、一九一四年六月二八日、オーストリア・ハンガリー帝国の領土（現・ユーゴスラビア領）であるボスニアの州都・サラエボ市である。

この日は快晴の日曜日。午前一〇時、オーストリア皇太子、フランツ・フェルディナント大公（五〇）とソフィー大公妃（四三）夫妻が、ボスニア地方で行われた陸軍大演習を閲兵後、特別列車でサラエボ駅に到着した。

大公夫妻が乗った、市長差しまわしの幌つきオープンカーが、走り始めてまもなくのことである。歩道にいた一人の青年が車道に歩み出て腕を上げると、手に爆弾らしきものを持っている。

大公の乗った車は、とっさにアクセルを踏んでスピードをあげ難を逃れたが、投げつけられた爆弾は路上で破裂し、後続車が大破。ボスニア総督副官ら二人と、歩道の群衆十数人が負傷した。犯人は、カブリロヴィッチ（一九）というセルビア人植字工であった。

その後、市庁での大公夫妻歓迎会は予定どおり行われたが、場は白けきり、市内の視察は中止された。しかし、「負傷した人々を見舞いたい」とする大公は、急遽病院に向かうことになった。

▲暗殺された皇太子夫妻。皇太子は、南スラブを含む連邦国家を志向し、民族主義者の反感を買っていた。

▲血に染まった、皇太子の上衣。

惨劇は近づいていた。進路を知らされていなかった運転手は、道路を右折しようとした瞬間、同乗していた総督の「まっすぐ進め」との指示に、いったん停止する。

暗殺者はこの機を見逃さなかった。曲がり角で待ち伏せていた青年が、突然、ブローニング拳銃を抜くと、車の右方向から大公夫妻めがけて、二発の銃弾を発射したのである。

大公夫妻は、ほんのしばらくは毅然としていたが、やがて大公妃は夫の胸に倒れこみ、咽喉を撃ち抜かれた大公は、口から鮮血を吐きながらその上に折り重なった。皮肉にも、この日は大公夫妻にとって一四回目の結婚記念日だった。

狙撃犯のガブリロ・プリンチプ（一九）は学生で、オーストリア・ハンガリーの支配下にあったセルビア人の解放をめざす秘密結社「統一か死か」（別名「黒手組」）が送りこんだ、暗殺者七人のうちの一人だった。この結社は一九一一年に結成された大セルビア国建設を掲げるテロ集団で、セルビア軍の青年将校が中心メンバーとなっていた。

戦闘勃発から二週間で欧州主要列強が参戦！

当時「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれたバルカン半島では、ドイツ・オーストリアの汎ゲルマン主義運動とロシアを背後に持つ汎スラブ主義運動が対立。とりわけ、一九〇八年にオーストリアがスラブ系住民の居住するボスニア・ヘルツェゴヴィナ二州の併合を宣言したことで、スラブ系民族の反オーストリア感情は高まっていた。

セルビアでは民族防衛団が組織され、五〇〇〇人以上の義勇兵が募られた。しかし、オーストリアに対する弱腰な政府の態度が露呈すると、それを不満とする過激な組織が芽生えていった。それが「黒手組」であった。

一方ドイツは、ベルリン・ビザンティウム（イスタンブール）・バグダッドを結ぶ中近東進出、いわゆる“三B”政策をもくろみ、イギリスの“三C”政策（カイロ・ケープタウン・カルカッタ）と対

外から見たNIPPON

漱石「門下生」エリセーエフの“身近な”日露比較論

――佐伯 修

帝政ロシア末期の大手食料品店「エリセーエフ商会」の御曹子、セルゲイ・エリセーエフ（一八八九～一九七五）が、「英利世夫」の名で、東京帝大文学科に入学したのは、一九〇八年のことだった。

一九〇〇年に、父親の別荘があるパリで開催された万国博で、「日本館」などに魅了されたエリセーエフは、四年後に勃発した日露戦争に刺激されて、ますます日本への関心を強めた。そして、一八歳の時、彼は留学先のベルリン大学で、『広辞苑』の編者などとして知られる新村出らと知り合い、これを機に日本留学を実現させる。

東京帝大在学中、エリセーエフは、大学院生の小宮豊隆や、その師の夏目漱石と交際、漱石の門下生となり、卒論のテーマには松尾芭蕉を選んだ。同時に、寄席や花柳界にも足繁くかよったエリセーエフには、日本髪の女装姿で、小宮宅に人力車で乗りつけ、小宮夫人をびっくり仰天させる、といった茶目っけもあったという。

▶日本留学中に無二の親友となった、小宮豊隆と。

そして、この年、六年間の日本留学を終えて帰国するにあたり、流暢な日本語の会話体で書いたエッセーの中で、エリセーエフは、日露両国の文化の身近な相異点をあげている。たとえば、幼児に母国語を教える場合、ロシアでは、「大人のように発音が出来、大人の言葉が、上手に、咄せる」よう、子どもにおとなが仕向ける、としたうえで言う。「ところが、日本では、それと反対です。充分、日本語の発音も出来ない子供と、話す時には、大人の方が、子供の言葉を真似ます。そうでしょう。『あなたは、どなたですか』というのを、『あなた、どなたでちゅか』というでしょう」（「日の本の国を去るに臨みて」）

「国語の為にはどちらが善いのでしょう、又、子供の教育の為には、どちらが善いのでしょう」と、エリセーエフは日本の読者に問いかけている。

帰国後のエリセーエフは、ペトログラード（現・サンクトペテルブルク）で東洋文化研究を続けた。帝政に批判的だった彼は、一九一七年のロシア革命を歓迎、日本にいた後輩のネフスキーには、熱烈な革命讃美の書簡をしたためたほどだった。が、まもなく、ブルジョア出身ゆえに秘密警察による恐怖の拘留を体験、二〇年に出国し、フランスに亡命後、日本語で手記『赤露の人質日記』（一九二一年）を書く。彼は「亡命」のことを、「夜逃げ」という日本語で言い表すことがあったとか。後の駐日大使・ライシャワーは、彼の教え子である。

立していたが、それは、ロシアの貿易通路をも遮断することを意味し、列強間の矛盾は頂点に達していた。そうした状況の中、大公暗殺をセルビアの報復と受け取ったオーストリアとドイツの思惑は一致する。

大公暗殺から約一ヵ月後の七月二三日、オーストリア政府はセルビア政府に最後通牒を突きつけ、同盟国・ドイツの支持を取りつけると、七月二八日にセルビアに宣戦布告した。八月一日には、対立するロシアが総動員令を発したことを口実に、ドイツがロシアに宣戦布告、二日後の八月三日、ドイツはフランスにも宣戦布告し、翌四日にはすかさず中立国であるベルギーに侵入する。

イギリスが、ベルギーの中立を保証した国際法違反を根拠に、ドイツに宣戦布告したのは八月四日。こうして、オーストリア・セルビア戦争勃発後二週間にして、ヨーロッパの主要列強のほとんどが戦火を交えることになった。第一次世界大戦である。

戦場はドイツ・オーストリアを中央に、西部戦線と東部戦線、そしてバルカン半島、アフリカにもおよんでいった。

西部戦線では、いち早くベルギーに侵攻し、パリをめざしたドイツ軍も、フランス北部・マルヌでの英仏連合軍の必死の抵抗の前に前進をはばまれる。戦場には、これまでの戦争にはなかった戦車、飛行機などの近代兵器が登場し、毒ガスや火炎放射器などで、敵の防衛線を突破するため次々と大攻撃が繰り返された。

東部戦線では、ドイツとロシアの攻防が繰り広げられた。最初優勢を誇ったドイツ軍もロシア軍を殲滅することができず、機動戦から陣地戦に移行し、戦闘は以後、四年三ヵ月にもおよんだのである。

第一次世界大戦とは何だったのか。

「基本的な対立はドイツとイギリスですが、それは帝国主義が必然的にはらむ領土拡張・世界分割という野望の衝突でした。反戦運動も国家の威信の前に呑みこまれ、日本の参戦は例外として、ヨーロッパでは総力戦という悲惨な状況に追いこまれて、『良き時代』（ベル・エポック）は二度と戻りませんでした。結局は、サラエボ事件から三年後に参戦し、戦禍の少なかったアメリカが世界の覇権を握っていくことになったのです」

こう語るのは、専修大学教授の西川正雄氏である。

CORBIS BETTMANN PPS

▶一九一四年八月一日、戦争突入数時間前のベルリン街頭。各所に動員令のポスターが貼られ、兵士たちはすでに集結しつつあった。

往きて還らぬ

▲1月16日　伊東祐亨(70)
明治期の海軍軍人。日清戦争時に連合艦隊長官。威海衛を攻略、清国艦隊を降伏させた。明治31年大将、後に元帥。

平凡社提供

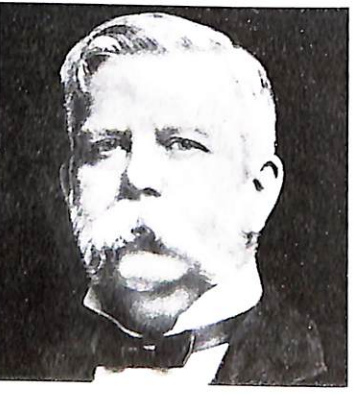
▲1月17日　3代目蝶花楼馬楽(49)
明治から大正期の落語家で、明治31年3代目襲名。飄逸な芸風で文士たちにも愛されたが、晩年は精神を病んだ。

▲1月30日　石井十次(48)
明治期のキリスト教社会事業家で岡山孤児院の創設者。明治中頃より孤児教育を開始、生涯孤児の教育に献身。

▲1月31日　広瀬宰平(85)
幕末から明治期にかけて住友財閥の基礎を築いた実業家。「東の渋沢、西の広瀬」と言われた、関西財界の柱石。

▲2月16日　青木周蔵(69)
明治期の外交官。明治7年から18年まで駐独公使をつとめ、独の政治制度や技術を日本に導入。39年初代駐米大使。

「写真通信」

◀3月3日　下岡蓮杖(90)
日本の写真師の祖で、文久二年（一八六二）横浜で写真館開業。牛乳搾取業・乗合馬車業の先駆者でもあった。

▲3月12日　G・ウェスティングハウス(67)
米の発明家。1867年空気ブレーキを発明。またナイアガラ瀑布に最初の発電所創設、米国初のラジオ製造も開始。

オリオン・プレス

▲7月2日　J・チェンバレン(77)
英の政治家。1895年から1903年までソールズベリー内閣の植民相となり、帝国主義政策を推進した。

▲7月4日　2代目高砂浦五郎(62)
明治期の力士。響矢の後、高見山として関脇となり、明治23年引退。33年高砂襲名、後に東京相撲協会別格年寄。

▶11月16日　押川春浪(38)
明治期の小説家。明治三三年、冒険小説『海底軍艦』が少年読者を魅了。雑誌『冒険世界』主宰。前列左端。

オリオン・プレス

▲7月31日　ジャン・ジョレス(54)
仏の政治家で、1885年政界入り、社会主義政党統一に尽力。1904年「ユマニテ」紙創刊。1914年暗殺された。

▲10月22日　小錦八十吉(48)
明治期の力士。明治21年入幕、29年横綱。全盛期の勝率は9割に達し、美男子力士としても人気を集めた。

毎日新聞社

▲11月14日　高島嘉右衛門(81)
幕末から明治期の実業家で、易断家でも有名。横浜で埋め立て工事を行い、新橋・横浜間の鉄道開通の陰の功労者。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第75号 8月11日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1915［大正4年］

●特集
砂漠の叛乱軍を率いた"無冠の帝王"！「アラビアのロレンス」の実像／"命短し 恋せよ乙女……"「ゴンドラの唄」大ヒット！／"中国を豚や狗のように見ている"「二十一ヵ条要求」の火事場泥棒！／独Uボートが奪った一一九八人の命 豪華客船「ルシタニア号」爆沈！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…独飛行船、初めて英本土を爆撃(1月19日)／ベルギーのイープルで独軍が毒ガスを初使用(4月22日)／奈良・東大寺の大仏殿修築が完成(5月2日)／三浦環、ロンドンで「蝶々夫人」初公演(5月31日)／杉本京太、和文タイプを発明(6月12日)／孫文、宋慶齢と結婚(10月25日)／大正天皇、即位の大典(11月10日)

●人物クローズアップ
森鷗外、「山椒大夫」発表

●決定的瞬間
砲弾増産、軍需工場も戦場に！

●美の出会い
岡本一平、"漫画漫文"で超人気！

●女たちの肖像…矢島楫子と廃娼運動／勝者・敗者…夏の中等学校野球大会スタート！／証言・あの日この日…島崎藤村、大宅壮一／「現場」を歩く…芝白金、北里研究所の「終始一貫」精神／20世紀博物館…ワイン資料館(山梨)／外から見たNIPPON…「二十一ヵ条要求」と孫文／ベストセラー…北原白秋、「ARS」創刊／スターと名場面…チャップリン「成功争い」／モノ語り'15…「亀の子束子」

■今後の刊行予定

▶第76号1916[大正5年]8月25日発売
新兵器「タンク」出現！●葉山「日蔭茶屋事件」●労働者保護「工場法」の実態●怪僧・ラスプーチンの死

▶第77号1917[大正6年]9月1日発売
「目玉の松ちゃん」人気絶頂！●日本海軍、地中海遠征●マタハリ銃殺！●レーニン、「封印列車」で帰国

▶第78号1918[大正7年]9月8日発売
「シベリア出兵」軍、上陸！●「米騒動」勃発！●武者小路実篤と「新しき村」●スペイン風邪の猛威

▶第79号1919[大正8年]9月14日発売
「三・一」「五・四」"抗日"運動！●独軍捕虜と日本●「浅草オペラ」熱狂記●ベルサイユ講和条約成立！

▶第80号1920[大正9年]9月22日発売
「宮中某重大事件」の暗闘！●惨劇「尼港事件」●「普選運動」最高潮！●大リーグ「ブラックソックス事件」

▶第81号1901[明治34年]9月29日発売
田中正造、天皇に直訴状！●与謝野晶子、『みだれ髪』刊行●明治のタバコ戦争！●第1回ノーベル賞

ミニ事典

1914年のキーワード

ゐのくちポンプ

遠心力を応用したポンプの理論を改良、東京帝大教授・井口在屋が製作した渦巻きポンプ。その実験結果を世界で最初に発表、教え子の畠山一清とゐのくち式機械事務所（現・荏原製作所）を創立、一月二九日に連名で特許を取得した。二年後、東京市の水道に大型ポンプを導入、広く認知されるようになった。畠山は即翁と号し、茶人、畠山記念館設立者としても著名である。

荏原製作所提供

▲荏原製作所に保存されている大型の渦巻きポンプ。東京市水道で使われたもの。

西本願寺疑獄事件

親鸞の教えを伝える浄土真宗最大の宗派、本派本願寺（西本願寺）派付属財団で起こった、背任横領・文書偽造事件。京都地検は二月一三日、財団の重役五人を京都監獄に収監。五人は法主・大谷光瑞の積極主義と自分たちの放縦から生じた寺の負債を、財団の浄財で勝手に穴埋めし、さらにその資金を遊興費などに乱費していた。五月、光瑞は改革派により法主・管長を辞任させられた。

マクマホン・ライン

英・中・チベット三国が三月二四日に英領インドのシムラで開いた会議で画定した、チベットとインドの間の国境線。英全権・マクマホンの名に由来する。後に中国側は批准を拒否。このことが、一九六二年以降の中印国境紛争の火種となった。

「や、此は便利だ」

副題に「ポケット顧問」とあり、成蹊社が四月に出版した、縦一六×横六・六センチ、三〇二ページ、ポケットサイズの用語辞典。新聞用語解説、実用熟語成句便覧、実用文字便覧、雑の四篇で構成。下中弥三郎（芳岳）が編集し、発行後一ヵ月で再版、次々に版を重ねた。後に紙型を下中が買い取り、六月に創立した平凡社の出版物のひとつとなった。

▲昭和初期、増訂128版のちらし広告。総頁数800余ページ、特価1円90銭に発展している。

母の日

子どもが母親に感謝する日。五月の第二日曜日。一九一四年五月七日、米連邦議会を通過、ウィルソン大統領が承認し、全官公庁が国旗を掲揚する国民の祝日となった。発案者は敬虔なメソジスト教徒の女性、ジャービス。一九〇七年五月にフィラデルフィアで祝典が行われて以来、次第に全米に普及。カーネーションを胸につけるのは、十字架にかかるキリストを見送る聖母マリアが落とした涙の跡にカーネーションの花が咲いた、という故事によっている。日本では第二次大戦後、一般化した。

帝国公道会

被差別部落民に対する融和運動の中央団体。山口県の僧侶・岡本道寿の努力により、華族・著名人らの協力を得、六月七日、創立された。会長・板垣退助、幹事・大江卓（天也）。九月に機関紙「公道」創刊、因習的偏見の打破と被差別部落民自身の自覚促進、思想啓蒙などをはかった。昭和二年、中央融和事業協会と合併。

雲右衛門音譜事件

人気浪曲師・桃中軒雲右衛門の、レコード複製についての係争事件。「赤垣源蔵徳利の別れ」などのレコード化を実現した貿易商のドイツ人・ワダマンが、著作権侵害で複製盤業者らを東京地裁に提訴。一審・二審とも勝訴したが、七月四日、大審院は「浪曲は著作物ではない。複写盤の製作は正義にもとるが、取締法がない」と無罪を言い渡した。レコードの海賊版がすべて罪に問われるのは、大正九年以降である。

「大正新時代の天佑」

第一次大戦が始まった七月二八日に元老・井上馨が口走ったとされる言葉。天佑とは天の助けの意味。海軍汚職のシーメンス事件の混乱収拾のため、元老会議は四月に第二次大隈内閣を発足させたものの、清浦奎吾組閣を海軍の反対などで流産させた後だけに、野党、国民の目は冷たかった。第一次大戦は、政府批判の国民の目をそらすにはかっこうの出来事だった。日本はドイツに宣戦布告、翌年、大隈内閣は懸案の陸軍二個師団増設を実現させた。

ヤマトホテル

南満州鉄道株式会社（満鉄）が経営するホテルチェーン。八月一日、関東州の中心都市・大連の中央大広場に大連ヤマトホテルがオープン。建坪六四九坪、四階建て、客室一一五。欧米のホテル設備の粋を集めた近世ルネサンス様式の堂々たるホテルだった。満鉄はこのほか、旅順、長春、奉天（現・瀋陽）、星ケ浦（大連郊外）、ハルビンなどにも次々と建設、チェーン展開した。

シュリーフェン・プラン

ドイツ軍が第一次大戦の対仏戦、マルヌの戦いで用いた侵攻作戦。アルザス、ロレーヌに軍隊をおいて扇の要とし、右翼に大軍を展開して進撃、仏軍を包囲、殲滅するというもの。しかし、九月六日、先鋒と第二軍の歩調の乱れを察知され、総反撃を受けて潰走、大失敗に終わった。この作戦は、一九〇五年にプロイセン陸軍参謀総長・シュリーフェンが発案。中立国ベルギーの侵犯を含め、ほとんど修正されずに採用された。

「イリュストラシオン」

▲独・仏最初の会戦であるマルヌの戦いは、仏の勝利に終わり、戦線が膠着する。

化学工業調査会

それまで輸入にたよってきた化学工業品の国産化をはかるために、調査・研究する農商務省の付属機関。一〇月一〇日に設立。第一次大戦勃発による軍需が、背景にあった。東京帝大農科大学教授・鈴木梅太郎ら二三人を委員として選出。一四日、第一回会合が開かれ、化学研究所、曹達試験所の設立、コールタール蒸留精製業の振興などを答申。理化学研究所設立（大正六年）の源流となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1914

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順・ 吉田忠正

●写真協力
有島明朗 石井美雄 大江正治 大畑俊男 尾形光彦 北川太 楠田守 児玉数夫 但馬一憲 中川市郎 野上英之 早川雪夫 林順信 平井富士子 山口隆司
ARCHIVE PHOTOS イリュストラシオン Ullstein オリオン・プレス CORBIS BETTMANN 中日新聞社 デジタルハウス PPS Hulton 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 荏原製作所 大林組 近畿日本鉄道 東京電力 日産自動車 松坂屋 明治屋 三越 イトーキ史料館 大宅壮一文庫 がす資料館 神奈川県立図書館 交通博物館 国立国会図書館 The Burton Holmes Collection（UCLA） 三康図書館 竹久夢二美術館 中国文化省 東京芸術大学 東京大学法学部付属明治新聞雑誌文庫 東京都現代美術館 東京YWCA 那覇市歴史資料室 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本美術家連盟 日本漫画資料館 日本郵船歴史資料館 野沢温泉村役場 水島衣裳雑貨博物館

23713-8/18　T1123713080561
Ⓛ-2001/1/1

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社